

# 取扱説明書

# Takakita 自走マニアスプレッダ

SD3000D



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために  
必ず本取扱説明書をお読みください。  
お読みになった後も大切に保管してください。  
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや  
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**


# はじめに


このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。


この取扱説明書は、**自走マニアスプレッタ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。


- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

## 警告サイン


 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

 **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

# 目次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	13
各部の名称とはたらき	14
運転に必要な装着の取扱い	17
1. キースイッチ	17
2. 操向レバー	17
3. 散布スイッチ	17
4. ロータリボリューム	18
5. コントロールボックスの取扱い	18
6. エコ作業の説明	26
7. 副変速スイッチ	27
8. 自動駐車ブレーキスイッチ	27
9. DPF装置のはたらきと取扱い	27
10. シートの調整	32
11. コンベア速度調節レバー	32
12. 燃料給油口	32
13. 燃料ゲージ	32
14. コンビネーションスイッチ、 ハイビーム	33
15. 後退灯、バックブザー	33
16. USBソケット	33
作業前の点検について	34
1. 点検一覧表	34
運転のしかた	35
1. 新車の取扱い	35
2. 走行順序	35
3. 停止順序	35
4. トラックへの積み込み・降ろし	36
5. トラックおよびトレーラでの運搬	36
6. 旋回するときは	37
作業方法	38
1. 作業手順と要点	38
2. 堆肥の積み込み	40
3. 散布量の調整	40
4. 散布方法	41
5. ディスクの角度調整	41
6. 散布幅規制	41
簡単な手入れと処置	42
1. エンジンの点検・調整	42
2. エンジンオイルの点検および交換	42
3. 油圧オイル	43
4. オイルフィルタ	43
5. 油圧ホース	43
6. ラジエータの点検	44
7. 燃料について	45
8. バッテリの液量	46
9. エアクリーナの点検	47
10. クローラの点検	48
20. 使用済廃棄物の処分について	53
21. センサの調整	54
11. コンベアチェンの張り調節	48
12. コンベア送り構造部の調節	49
13. 操向レバーの調整	49
14. ビータカバーの開閉	49
15. 電気の各配線コード、 各ヒューズの点検・交換	50
16. 各種リレー1	52
17. 各種リレー2	52
18. ブザーの音量	53
19. 長期格納時の手入れ	53
22. 各部への注油・グリスアップ	55

**不 調 診 断 . . . . . 56**

---

- 1. 不調診断 . . . . . 56
- 2. エラーコード一覧表 . . . . . 58

**付 表 . . . . . 65**

---

- 1. 主要諸元 . . . . . 65
- 2. 配線図 . . . . . 66
- 3. 油圧配管図 . . . . . 67
- 4. 主な消耗部品 . . . . . 68

## ⚠️ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠️表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

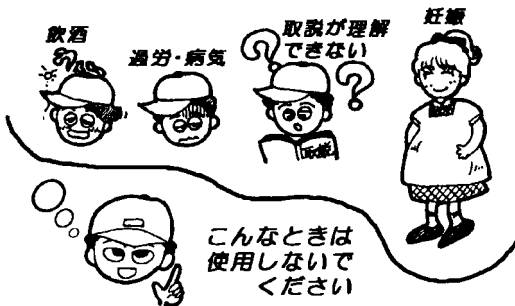
機械を人に貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

### 1. 本機を使用するにあたって

#### (1) 使用する人の条件

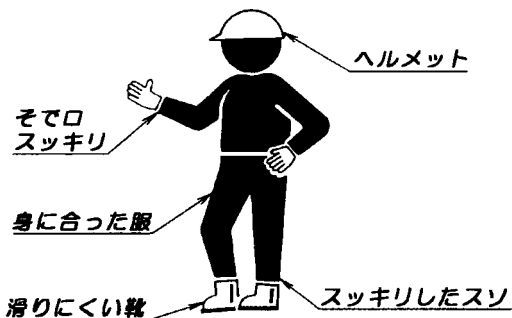
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



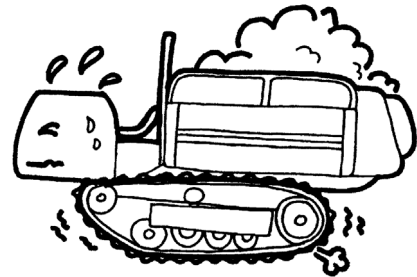
#### (2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



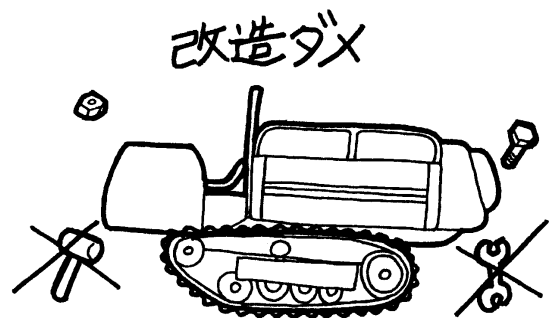
#### (3) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。積載量は平地で3000kg、傾斜地作業は最大傾斜10度までとし、そのときの積載量は2000kgです。



#### (4) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けないでください。また、改造をしないでください。



## ⚠️ 安全に作業するために

- (5) 使用目的以外への使用禁止  
堆肥を積載し圃場へ散布することを目的とした機械です。  
他の目的には使用しないでください。

- (6) 機械を他人に貸すとき  
取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



- (7) 運転者以外に人を乗せない  
本機の乗車定員は1名です。運転者以外、人を乗せないでください。

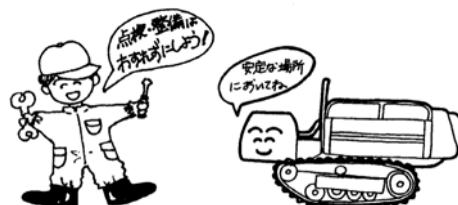
### 2. 点検・整備をしてください

- (1) 1年毎の定期点検・整備を  
整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業できるようにしてください。



- (2) 作業前の点検・整備を忘れずに  
ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

- (3) 点検・整備・掃除をするとき  
点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でエンジンを停止して駐車ブレーキをしてから行ってください。



- (4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから  
マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

- (5) 機械を常にきれいに  
エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっていると、おもわぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



## ⚠️ 安全に作業するために

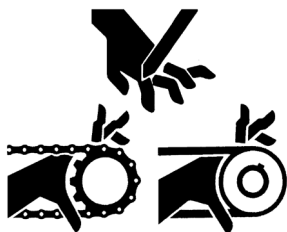
### (6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



### (7) カバー類を必ず取り付ける

カバー類などの防護装置を取り外すときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。また、取り外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



### (8) 注油・給油するときは

チェーンへの注油は、エンジンを停止してから行ってください。



また、油圧タンクへの給油は、高温のときには行わないでください。

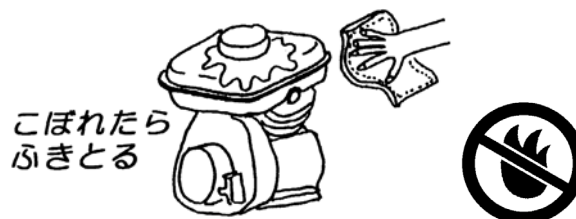
### (9) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコやマッチ・ライターなど裸火照明は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。



### (10) こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



### (11) マフラ・エンジンのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺に、ワラズ・ゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取除いてください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



### (12) ラジエータが熱いときは

ラジエータが加熱しているときには、絶対にラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し、火傷する恐れがあります。

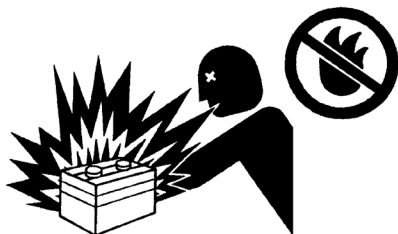
## ⚠️ 安全に作業するために

### (13) 電気部品を修理するときは

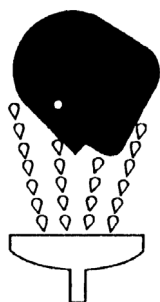
- ① 電気部品やその周辺の修理を行うときには、必ずバッテリーの(-)側を外してから実施してください。



- ② バッテリーは、充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発の恐れがあります。充電中はタバコを吸ったり、火を近づけたりしないでください。



- ③ バッテリー液は希硫酸なので扱いには注意し、体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合は、すぐに水洗いし、すみやかに医療機関を受診してください。



### (14) 長期格納するときは

- 機械を清掃し、回転部およびチェーンには十分注油し、バッテリーを取外し、キーを抜き取り、屋内の平坦な場所に保管してください。



### 3. 作業・移動をするときは

#### (1) 人や動物を近づけない

- 特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



#### (2) エンジンを始動するときは

- 操向レバーを必ず中立にするとともに、駐車ブレーキスイッチが自動になっていることを確認し、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



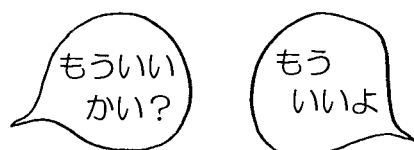
## ⚠️ 安全に作業するために

### (3) 回転中は危険です

回転部には近寄らない、触れないを守ってください。

### (4) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



### (5) 散布する堆肥の異物は取り除く

散布する堆肥には石・木片・鉄片などの異物を混入させないようにしてください。機械の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ方向へ飛散して危険です。



### (6) 散布中は荷台内に顔を出さない

散布中は運転席側にも堆肥などが飛散する場合があります。

危険ですので、保護ガードより顔や頭を出さないでください。

### (7) 移動および作業の旋回の際は

旋回時に片方のクローラをあせぎわに乗り上げたり、急旋回は絶対に行わないでください。転倒や脱輪の恐れがあり危険です。

### (8) 急な発進・停止・旋回・

#### スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。



### (9) 散布作業するときは

散布作業中は後方に堆肥が10m前後に飛散します。後方に人がいないことや障害物のないことを充分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



### (10) 散布中は保護ガードより

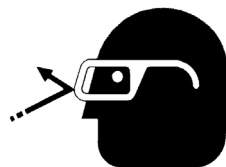
#### 顔を出さない

散布中は運転席側にも堆肥などが飛散する場合があります。危険ですので、保護ガードから顔や頭を出さないでください。

## ⚠ 安全に作業するために

### (11) 散布作業中は

肥料や堆肥が飛散し、目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用してください。



保護メガネ着用  
保護マスク着用

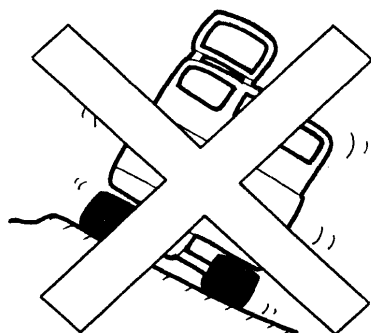
### (12) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ① 等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

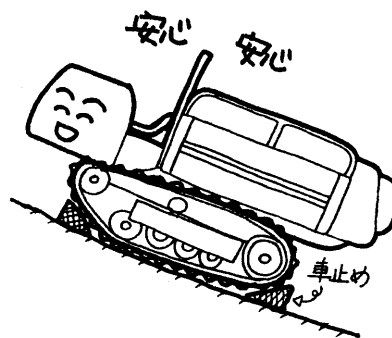
斜面の作業は、必ず直角方向に走行してください。

- ② 変速位置をあらかじめ低速にして速度を下げ、特に、下り坂ではエンジンプレーキを使用してください。



### (13) 溝や畦を横断したり

軟弱な所を通るときはスリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



### (14) 作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停車し、操向レバーを中立にして、エンジンを停止してください。エンジンを停止すると駐車ブレーキがかかります。

### (15) あぜの乗り越え

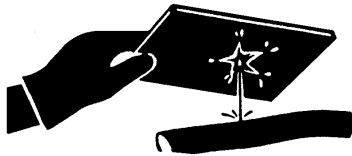
畦畔を越えるときは、機体が上向きから下向きに急に変わりますので、十分に注意し、最低速度で畦畔に直角に越えるようにしてください。あぜがコンクリートであったり、高さが10cm以上のときはアユミ板を使用してください。



## ⚠ 安全に作業するために

### (16) 高圧油に注意してください

- ①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ②高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取外し前には必ず残圧を抜いてください。
- ③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。
- ④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で油漏れを探さないでください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



- ⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがありますので、すぐに医療機関を受診してください。



### (17) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分に温度が冷えてから行ってください。
- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医療機関を受診してください。



### (18) 作業中はポンプに触れない

作業中は油圧モータ、油圧ポンプ、油圧タンクなどの油圧機器は高温になっているため触れると火傷をする恐れがあります。点検・調整時には温度が十分に冷めてから行ってください。



## ⚠ 安全に作業するために

### (19) 回転中のピータやコンベアバー

コンベアチェンには触れない

回転しているピータやコンベアバー・コンベアチェンに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



### (20) 長時間の連続作業時は

聴覚保護具を着用してください

作業中は機械の動作音が大きく、長時間の連続作業は騒音障害の原因となります。必要に応じて聴覚保護具を着用してください。

### 4. 道路走行・輸送するときは

#### (1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

#### (2) トラックなどへの積み込み・降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で走行し、できるだけ方向変更を行わないでください。

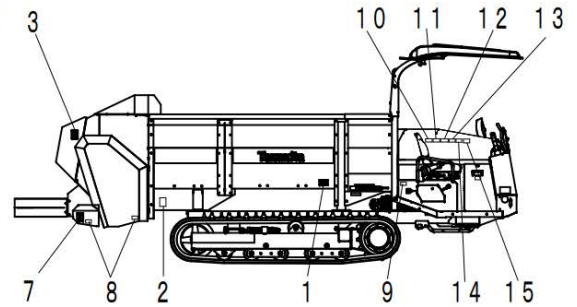
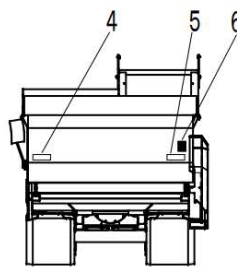
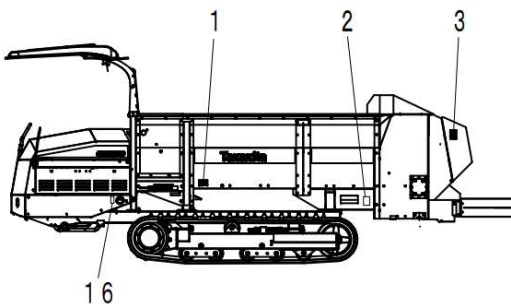
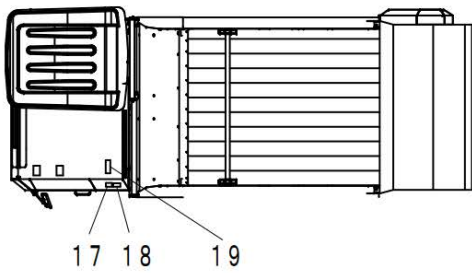
積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置



① 部品コード 001206002680



② 部品コード 001206002780

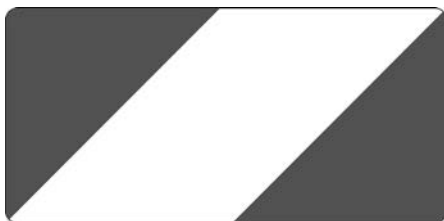


③ 部品コード 001206002060

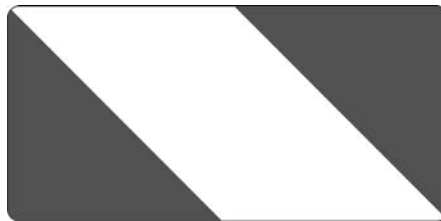


**!** 安全に作業するために

④部品コード 001306000600



⑤部品コード 001306000610



⑥部品コード 001206001090



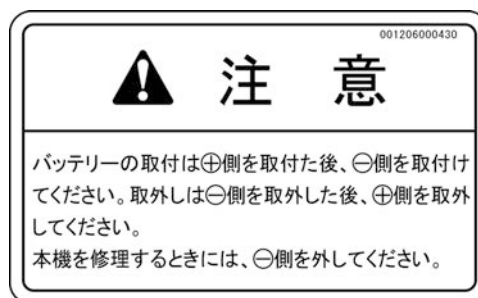
⑦部品コード 001306000080



⑧部品コード 001206000800



⑨部品コード 001206000430



⑩部品コード 001206000440



⚠ 安全に作業するために

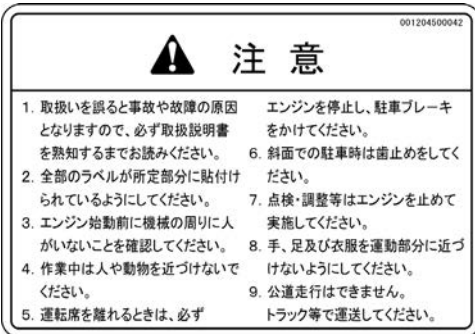
⑪部品コード 001206000940



⑫部品コード 001206000400



⑬部品コード 001204500042



⑭部品コード 001306000220



⑮部品コード 001206001050



## ⚠ 安全に作業するために

⑯部品コード 001206000420



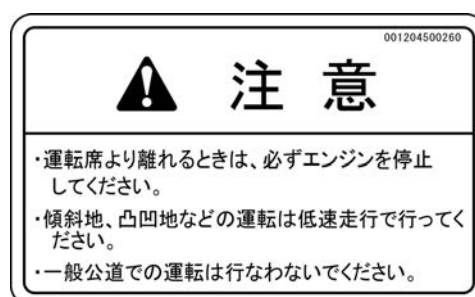
⑰部品コード 001206001080



⑱部品コード 001306000190



⑲部品コード 001204500260



### 警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

# 本製品の使用目的とサービスについて

## 本製品の使用目的について

本製品は、堆肥散布にご使用ください。

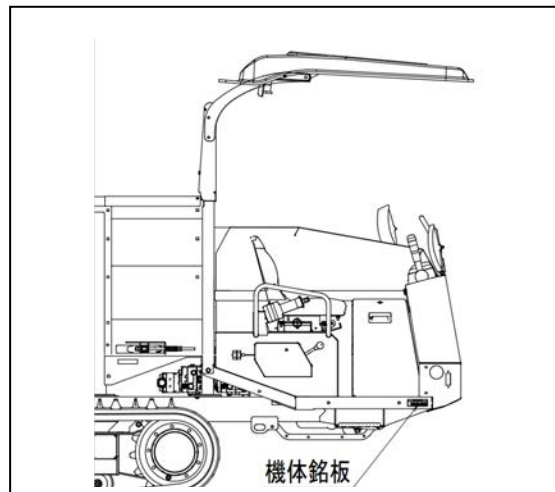
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

## アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、JA（農協）、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



## 【連絡していただきたい内容】

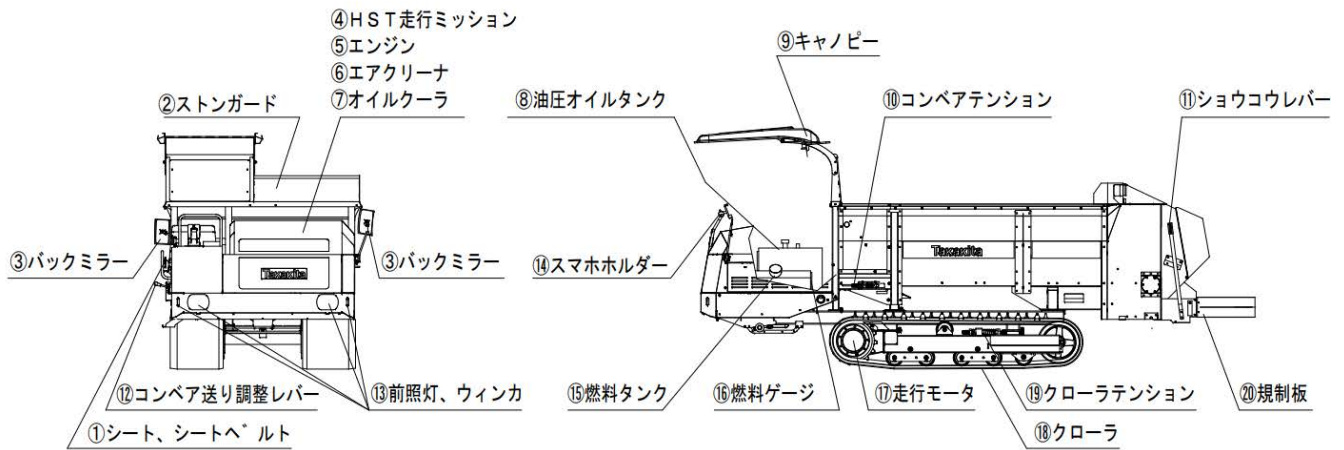
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？  
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？  
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

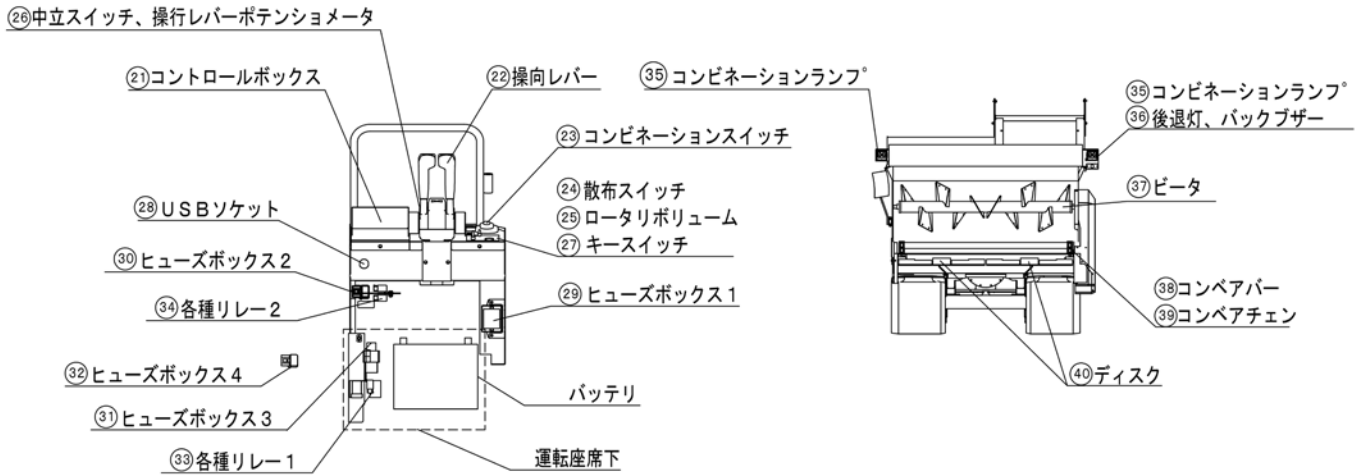
品名	自走マニアスプレッダ		
型式	SD3000D		
機体 No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ( )		

# 各部の名称とはたらき



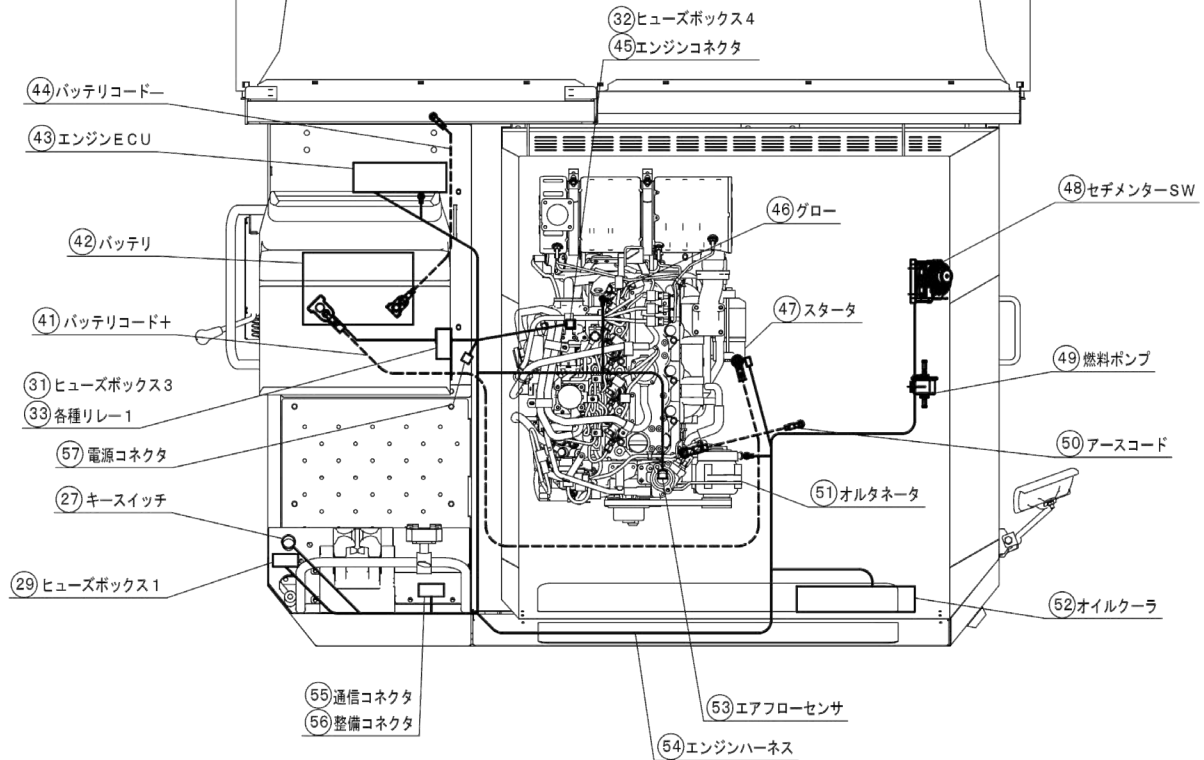
番号	名称	はたらき
1	シート、シートベルト	作業者の座席、安全装備
2	ストンガード	作業者への堆肥・小石等の飛散を防止
3	バックミラー	後方確認用ミラー
4	HST走行ミッション	走行速度および前後進を無段階調整する走行ミッション
5	エンジン	動力源、ディーゼル水冷4気筒
6	エアクリーナ	エンジンに取り込む空気を浄化
7	オイルクーラ	HST走行ミッションおよび油圧用オイルの冷却
8	油圧オイルタンク	油圧オイルはVG46
9	キャノピー	作業者への日差しや雨を防ぐ
10	コンベアテンション	コンベアの張り具合を調整するスプリング
11	ショウコウレバー	ディスクの角度を調整
12	コンベア送り調整レバー	コンベアの送り速度を調整
13	前照灯、ウインカ	走行用照明、方向指示器
14	スマホホルダー	スマートフォンを固定する台
15	燃料タンク	燃料は軽油
16	燃料ゲージ	給油時燃料の残量を確認、コントロールボックスでも残量表示
17	走行モータ	クローラを駆動、駐車ブレーキ機能付き
18	クローラ	ゴム製の走行履帯
19	クローラテンション	クローラの張り力を調節するスプリング
20	規制板	散布幅の規制

# 各部の名称とはたらき



番号	名称	はたらき
21	コントロールボックス	各種設定、操作画面表示
22	操向レバー	前後進・旋回をコントロールするレバー
23	コンビネーションスイッチ	ウィンカ、前照灯、尾灯、ホーン用スイッチ
24	散布スイッチ	散布部への動力伝達の「入・切」の切り替え
25	ロータリボリューム	エンジン回転数の調整
26	中立スイッチ 操向レバーポテンシオメータ	操向レバーの位置を判断します
27	キースイッチ	「ST」位置でエンジンが始動、「OFF」位置で停止
28	USBソケット	2ポート(typeA)
29	ヒューズボックス1	過電流が流れたときに配線、素子を保護
30	ヒューズボックス2	過電流が流れたときにコントロールボックスを保護
31	ヒューズボックス3	過電流が流れたときにエンジン側の配線、素子を保護
32	ヒューズボックス4	過電流が流れたときにエンジン側センサを保護
33	各種リレー1	エンジン始動、メイン電源用リレー
34	各種リレー2	作業に必要なリレー
35	コンビネーションランプ	ウィンカ、ブレーキランプ、尾灯を備えたランプ
36	後退灯、バックブザー	後退時に点灯、断続音で警告
37	ピータ	堆肥を均平にして散布ムラを低減
38	コンベアバー	堆肥を機体後方の散布部へ搬送
39	コンベアチェン	コンベアバーの連結、# 57
40	ディスク	堆肥を散布

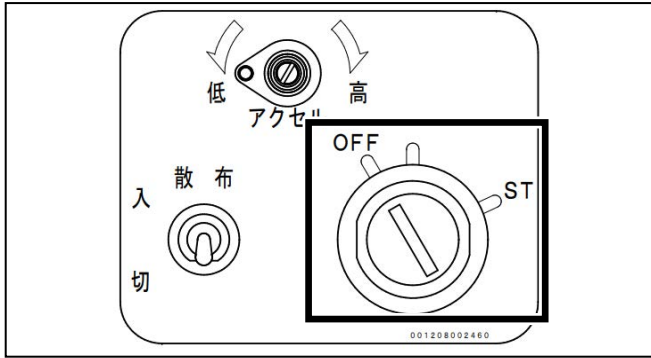
# 各部の名称とはたらき



番号	名称	はたらき
41	バッテリーコード+	バッテリー、スタータを接続
42	バッテリー	JIS115D31R相当のバッテリー
43	エンジンECU	エンジン制御用ECU
44	バッテリーコード-	バッテリー端子とフレームを接続
45	エンジンコネクタ	エンジン側センサとエンジンハーネスの中継コネクタ
46	グロー	グロープラグ
47	スタータ	エンジンスタータ
48	セチメンターSW	燃料水分計
49	燃料ポンプ	燃料ポンプ
50	アースコード	エンジン本体とフレームを接続
51	オルタネータ	バッテリー充電用オルタネータ
52	オイルクーラ	油圧オイル冷却用オイルクーラ
53	エアフローセンサ	D P F 装置用センサ
54	エンジンハーネス	エンジンハーネス
55	通信コネクタ	エンジンECU、コントロールボックス間の通信用コネクタ
56	整備コネクタ	サービスツール接続時に使用
57	電源コネクタ	コントロールボックスへの電源供給用コネクタ

# 運転に必要な装置の取扱い

## 1. キースイッチ

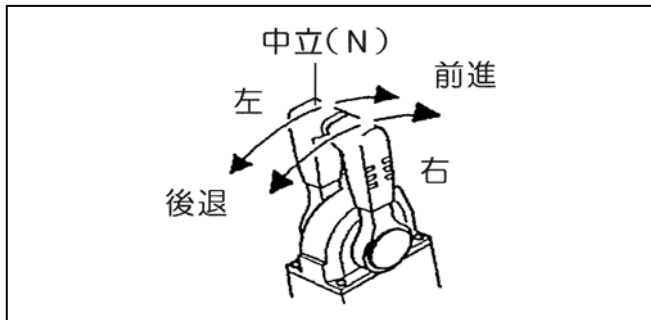


エンジンの始動・停止に使用します。始動する際は、ロータリボリュームが低の位置にあることを確認し、キースイッチを「ST」の位置まで回してください。エンジンのセルモータが回転し、エンジンが始動します。停止するときは、キースイッチを「OFF」位置まで戻してください。

### 注意

操向レバー中立、自動駐車ブレーキ「ON」、散布スイッチ「切」でないとエンジンがかかりません。

## 2. 操向レバー



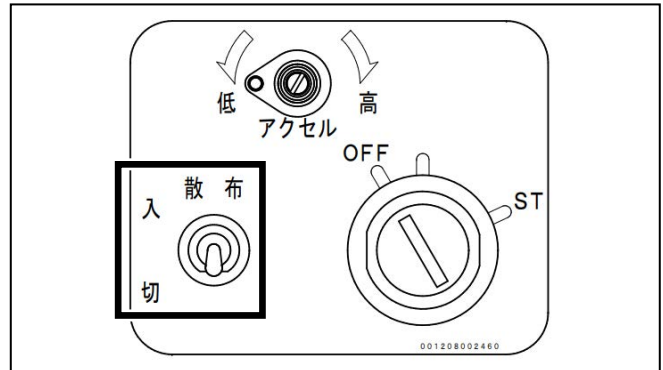
左右のレバーはそれぞれ左右のクローラの回転方向に連動しており、レバーを倒す角度に応じて無段階にクローラの回転を調整できます。

また、左右のレバーを倒す角度を変えることで旋回できます。この場合、レバーの倒す角度が小さいレバー側に旋回します。また、左右のレバーを逆方向に動かすと急旋回することができますが、積載量が多い場合や湿田での走行は、安全弁が働き旋回不可能な場合もあります。その場合には大回りで旋回するようにしてください。

## 警告

- 高速走行時の急旋回は、危険ですので行わないでください。
- 砂利道での急旋回は、クローラに石がかみ込むおそれがありますので避けてください。
- 旋回時に片方のクローラをあぜに乗りあげたり、畔際での急旋回は絶対に行わないでください。守らないと、転倒したりクローラが外れたりするおそれがあります。

## 3. 散布スイッチ



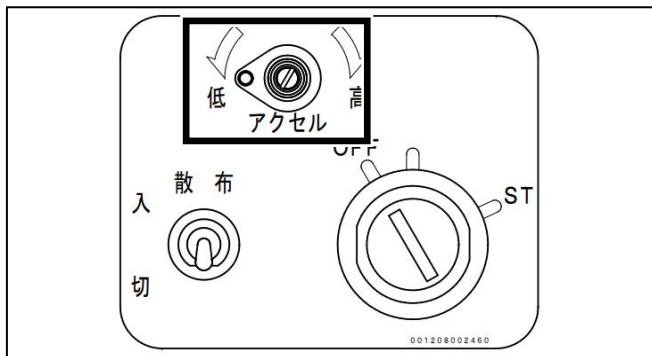
散布スイッチを「入」にするとマニアスプレッダが作動します。

### 注意

- ・エンジン回転数が高い状態での急な接続操作は、チェーン等の損傷の原因となります。エンジン回転数を低くして散布スイッチを「入」にしてください。
- ・ゲートアタッチを使用する場合、ゲートが全開位置にないと散布できません。

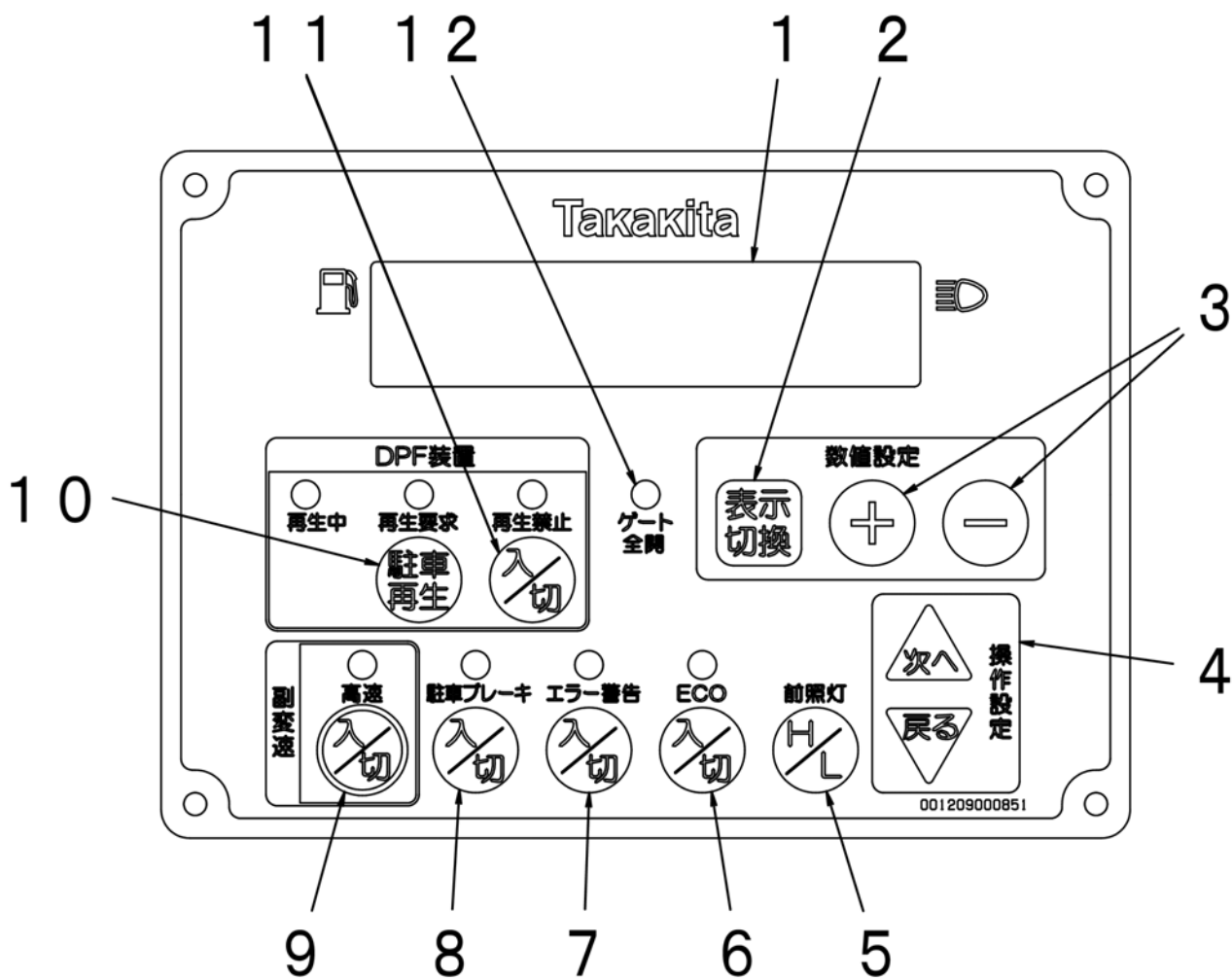
# 運転に必要な装置の取扱い

## 4. ロータリボリューム



エコ作業モードを使用しない場合、ロータリボリュームを回してエンジン回転数を調整してください。

## 5. コントロールボックスの取扱い



## 運転に必要な装置の取扱い

番号	名 称	は た ら き
1	液晶画面	・作業状態、エラー内容を表示します。
2	表示切換ボタン	・押す度に、設定モード→入力チェックモード→出力チェックモード→作業画面を切換えます。
3	+ボタン -ボタン	・押す度に、設定モードの項目の設定値に+1します。 ・押す度に、設定モードの項目の設定値に-1します。 ・同時に押すと、設定モードの項目の設定値を初期値にリセットします。
4	次へボタン 戻るボタン	・設定モード、入力チェックモード、出力チェックモードで項目を切り替えるときに使用します。
5	HI/LOW 切換ボタン	・押す度に、前照灯のハイビーム、ロービームを切り換えます。 ハイビームでは液晶画面の右上に「H」と表示されます。
6	ECO 作業ボタン	・押す度に、エコ作業モードのON/OFFを切換えます。 エコ作業モードONで散布中、走行中にエンジン回転数を上げます。 ランプ点灯:エコ作業モードON。
7	エラー警告ボタン	・エラー発生時に押すことで警告音、表示を消せます。 エラーが解消するまでエラー警告のLEDが点灯します。
8	自動駐車ブレーキボタン	・押す度に、自動駐車ブレーキのON/OFFを切り換えます。 ランプが点灯(自動駐車ブレーキON)している状態でも、走行中はブレーキが自動で解除されます。 ランプ点灯:自動駐車ブレーキON。
9	副変速ボタン	・ボタンを押す度に、副変速の低速・高速を切換えます。 ランプ点灯:高速。
10	駐車再生ボタン	・再生要求のランプが点滅している時にボタンを押すとDPF駐車再生できます。 散布作業を中止し、駐車してから駐車再生処理を行ってください。
11	再生禁止ボタン	・DPF 再生したくない場合に再生を禁止し、警告音、表示を消せます。 ランプ点灯:DPF再生禁止状態。
12	ゲート全開LED	・オプションのゲート使用時にゲートが全開位置でランプが点灯します。 ゲートが全開位置で散布作業を行えます。

## 運転に必要な装置の取扱い

### ◆キースイッチを入れると

社名、型式、プログラムのバージョンを表示。

タカキタ SD3000 47238-9121-0000
--------------------------------

### ◆作業中表示（正常時）

プログラムのバージョン表示後コントロールボックスに下記画面が表示されます。

E■■■■■F カイテン 0H サギョウ OK
----------------------------

上段：燃料の残量、エンジン回転数、前照灯のハイビームのON/OFF、  
下段：作業状態

「表示切換」ボタンを1回押すと下記画面が表示され、  
燃料の残量が消えエンジン負荷率が表示されます。

フカ 0 カイテン 0H サギョウ OK
-------------------------

上段：エンジン負荷率、エンジン回転数、前照灯のハイビームのON/OFF、  
下段：作業状態

正常時以外の表示は「エンジンエラーの表示」以降に記載してあるので参照してください。  
もう一度「表示切換」ボタンを押すと設定モードに移行します。

### ◆設定モードの表示と変更方法

- ・キースイッチを入れ「表示切換」ボタンを2回押すと設定モードに入ります。  
※無関係な設定変更は動作不良に繋がりますので、しないでください。

1. エンジンカドウジカン セッテイチ 0
--------------------------

- ・以下のボタンで設定変更してください。
  - ・「次へ」ボタン：次の項目を表示
  - ・「+」、「-」ボタン：値を変更
  - ・「戻る」ボタン：前の項目を表示
  - ・「+」、「-」ボタン同時に長押し：値をリセット

## 運転に必要な装置の取扱い

No.	表示	内容
1	1. エンジンカドウジカン セッテイチ 0	エンジンECUから受信したエンジン稼働時間(h)です。 設定変更はできません。
2	2. ECO テイカクカイテンスウ セッテイチ 2900rpm	ECO作業モード ON での前進時、散布時の回転数です。 初期値:2900 範囲:2000~2900。
3	3. ECO コウタイカイテンスウ セッテイチ 2000rpm	ECO作業モード ON での後退時の回転数です。 初期値:2000 範囲:2000~2900
4	4. サンプ バックアップ セッテイチ OFF	散布のトグルスイッチが故障した場合、コントロールボックス の副変速スイッチで代用できます。 初期値:OFF
5	5. ゲート キノウ セッテイチ OFF	オプションのゲートを取り付けた場合、ONにしてください。 初期値:OFF
6	6. チュウリツ ミギ ホゾン セッテイチ 2.50V	「+」と「-」ボタンを同時長押しすることで右の操向レバー の中立位置を保存できます。 初期値:2.5 条件:中立SW ON
7	7. チュウリツ ヒダリ ホゾン セッテイチ 2.50V	「+」と「-」ボタンを同時長押しすることで左の操向レバー の中立位置を保存できます。 初期値:2.5 条件:中立SW ON
8	8. ネンリョウケイ マンタンイチ セッテイチ 1.62V	燃料タンクの満タン検出位置を設定できます。 初期値1.62 範囲:1.00~2.00
9	9. ネンリョウケイ カライチ セッテイチ 3.33V	燃料タンクの空検出位置を設定できます。 初期値:3.33 範囲:3.00~4.00
10	10. デンアツテイカ ケイコク セッテイチ 12.0V	エンジンがかかる前に電圧低下した時に警告する電圧値。 初期値:12.0 範囲:9.0~16.0
11	11. ジュウデンケイコク セッテイチ 13.0V	エンジンがかかった後に充電警告が表示される電圧値。 初期値:13 範囲:9.0~16.0

設定変更が終わったら、「表示切換」ボタンを3回押して作業モードに戻ってください。

### ◆入力チェックモードの表示

- ・「表示切換」ボタンをもう一度押すと入力チェックモードに入ります。  
センサがON状態だとブザーが鳴り、OFF状態だとブザーが鳴りません。  
センサの入力確認にご利用ください。

ニュウリョク チェック モード

- ・以下のボタンで表示を変更してください。
- ・「次へ」ボタン：次の項目を表示 ・「戻る」ボタン：前の項目を表示

## 運転に必要な装置の取扱い

No.	表示	内容
1	ニュウリヨク チェック モード SDデンアツ 13.7 V	コントロールボックスの電圧を表示
2	ニュウリヨク チェック モード チュウリツSW ON	中立スイッチの状態をON/OFFで表示
3	ニュウリヨク チェック モード カイテンスウ p t 2.50 V	エンジン回転数のロータリボリュームの電圧値を表示
4	ニュウリヨク チェック モード サンプSW ON	散布スイッチの状態をON/OFFで表示
5	ニュウリヨク チェック モード ゲートSW OFF	ゲートスイッチの状態をON/OFFで表示 オプションのゲートを取り付けた場合のみ使用
6	ニュウリヨク チェック モード ミギレバー p t 2.50 V	操向レバー右のポテンシオメータの値を表示
7	ニュウリヨク チェック モード ヒダリレバー p t 2.50 V	操向レバー左のポテンシオメータの値を表示
8	ニュウリヨク チェック モード ネンリョウデンアツ 2.50 V	燃料計の電圧値を表示
9	ニュウリヨク チェック モード シュウヘンオンド 20ド	エンジン周辺温度を表示
10	ニュウリヨク チェック モード ススタイセキ 0	DPFの煤堆積率を表示
11	ニュウリヨク チェック モード ネンリョウスイブンケイ NO	燃料への水の混入の有無を表示
12	ニュウリヨク チェック モード レイキャクスイオンド 20ド	エンジン冷却水の温度を表示
13	ニュウリヨク チェック モード エンジンデンアツ 13.8 V	エンジンECUの電圧値を表示

入力確認が終わったら、「表示切換」ボタンを2回押して、作業モードに戻ってください。

## 運転に必要な装置の取扱い

### ◆出力チェックモードの表示

- ・「表示切換」ボタンをもう一度押すと出力チェックモードに入ります。  
ブザー、ライトや油圧出力の確認にご利用ください。

シュツリョク チェック モード

### ⚠ 注意

怪我をするおそれがありますので、「+」、「-」ボタン操作の際は、平坦な場所でエンジンを停止して、機械の周りに人がいないことを確認してから行ってください。

- ・以下のボタンで表示を変更してください。
- ・「次へ」ボタン：次の項目を表示      ・「戻る」ボタン：前の項目を表示
- ・「+」ボタン：各出力を出します。      ・「-」ボタン：各出力を切ります。

No.	表示	内容
1	シュツリョク チェック モード コウタイトウ ブザー OFF	ONで後退灯点灯、バックブザーの断続音が鳴る
2	シュツリョク チェック モード ブレーキ カイジョ OFF	ONでブレーキ解除の電磁バルブを動作させて、ブレーキ解除
3	シュツリョク チェック モード ソウコウ キリカエ OFF	ONで副変速の電磁バルブを高速に切替える
4	シュツリョク チェック モード エンジンシドウ OFF	ONでエンジン安全始動のリレーON、エンジン始動可能
5	シュツリョク チェック モード サンプ バルブ OFF	ONで散布の電磁バルブ動作し、散布開始
6	シュツリョク チェック モード ライト ハイビーム OFF	コンビネーションSWの前照灯「入」の時に、 ONでハイビーム点灯

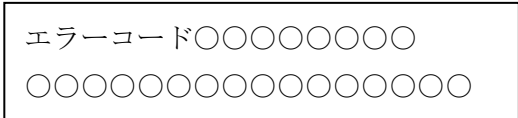
出力確認が終わったら、「表示切換」ボタンを1回押して、作業モードに戻ってください。

# 運転に必要な装置の取扱い

## ◆エンジンエラーの表示

エンジンのエラーが発生した際のコントロールボックスの表示です。  
 下記表示がされている際はブザーの断続音も鳴ります。  
 断続音を切りたい場合、「エラー警告 入/切」ボタンを押してください。

上段：エンジンエラーコード、  
 下段：エンジンエラー内容



エラーの詳細については「不調診断」の「エラーコード一覧表」を確認してください。

## ◆電源投入時表示(操作が必要な場合)

キースイッチONで操作が必要な場合のコントロールボックスの表示の一覧です。  
 下記表示がされている際はブザーの断続音も鳴ります。  
 断続音を切りたい場合、「エラー警告入/切」ボタンを押してください。

表示	内容
デンアツ テイカ 10.1 V	バッテリー電圧が電圧低下警告の設定以下となっている時の表示です。 エンジン始動時にセルが回らなければバッテリーを充電してください。
チュウリツ ヲ カクニン	前後進レバーが中立位置にないためエンジンがかかりません。 中立位置に戻してください。
サンプSW ヲ カクニン	散布スイッチが入っているためエンジンがかかりません。 スイッチを切ってください。
ブレーキ ヲ カクニン	自動駐車ブレーキがOFFのためエンジンがかかりません。 自動駐車ブレーキボタンを押して自動駐車ブレーキON状態(ランプが点灯)にしてください。
CANツウシン イジョウ	CAN通信線の断線、コネクタの接触不良が起こっています。 配線図を参考にエンジンECUのコネクタを確認してください。
ネンリョウ ヲ キュウユ	燃料が残り10%以下になると表示されます。 燃料を補充してください。 燃料が25%まで補充されると表示が消えます。

## 運転に必要な装置の取扱い

### ◆エンジン始動時、稼働中表示(警告)

エンジン始動時、稼働中のコントロールボックスの警告表示の一覧です。

充電異常の表示がされている際はブザーの断続音も鳴ります。

断続音を切りたい場合、「エラー警告入/切」ボタンを押してください。

表示	内容
ジュウデン イジョウ	バッテリー電圧が電圧低下警告の設定以下となっている時の表示です。バッテリーを充電してください。
コウフカ フカリツ	エンジンが高負荷になっています。 負荷を減らしてください。

### ◆ゲート機能ONかつ散布時表示(異常時)

下記表示がされている際はブザーの断続音も鳴ります。

断続音を切りたい場合、ゲートを上げてください。

表示	内容
ゲート ヲ アゲル	ゲートが全開位置にないため散布できません。 ゲートを閉じた状態で駆動を入れると機械の破損につながるためゲートを上げてください。

※警告表示が出ないため、オプションのゲートを取り付けた場合は設定モードに入り、「5. ゲート キノウ」をONにします。

### ◆DPF自動再生時表示

DPF自動再生時のコントロールボックスの表示です。

DPF再生については「運転に必要な装置の取扱い」の「DPF装置(ディーゼル微粒子の除去装置)のはたらきと取扱い」を参照してください。

表示	内容
DPF サイセイチュウLv	DPF自動再生をしています。 回転数を上げて作業してください。

# 運転に必要な装置の取扱い

## ◆DPF 駐車再生/停止時表示

DPF駐車再生に関わるコントロールボックスの表示の一覧です。

DPF再生については「運転に必要な装置の取扱い」の「DPF装置（ディーゼル微粒子の除去装置）のはたらきと取扱い」を参照してください。

駐車再生必要の表示がされている際はブザーの断続音も鳴ります。

その場でDPF再生できず断続音を切りたい場合、再生禁止スイッチを押してDPF再生禁止にします。安全に駐車再生できる場所まで移動してDPF再生禁止を解除してください。

表示	内容
DPF チュウシャサイセイヒツヨウ	DPFに煤がたまっています。 駐車再生が必要です。
DPF チュウシャサイセイチュウ	DPF駐車再生を実施しています。
DPF サイセイテイシ	DPF駐車再生を停止しました。表示時間経過後回転数が元に戻ります。

## 6. エコ作業の説明

エコ作業モードがONの時は散布中、走行中にエンジン回転数が設定した回転数まで上昇します。

エコ定格回転数、エコ後退回転数の設定については「運転に必要な装置の取扱い」の「5. コントロールボックスの取扱い」をご確認ください。

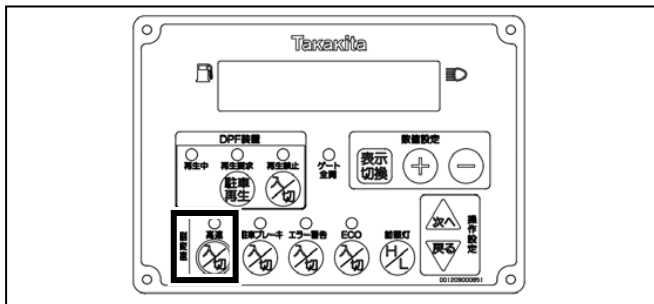
DPF駐車再生中はエコ作業モードを使用できません。

エンジン回転数の 制御条件	散布 スイッチ ON	走行状態					エコ作業 モード OFF	DPF 駐車再生 ON
		前進	前方 旋回	超信地 旋回	後方 旋回	後退		
ロータリボリュームで制御							○	
エコ定格回転数に制御	○	○	○	○				
エコ後退回転数に制御					○	○		
エンジン側で制御								○

ロータリボリュームのエンジン回転数の範囲は1400rpm～2900rpm、エコ定格回転数の初期値は2900rpm、エコ後退回転数の初期値は2000rpmです。

# 運転に必要な装置の取扱い

## 7. 副変速スイッチ

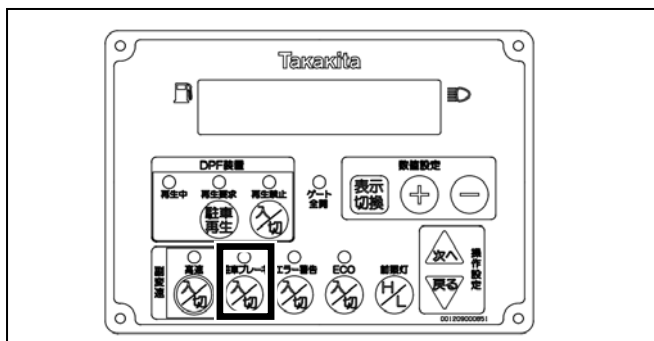


走行速度の範囲を高／低に切り換えるスイッチです。ランプ点灯時は高速、消灯時は低速になります。

### 注意

積載状態のときは、低速で走行するようにしてください。

## 8. 自動駐車ブレーキスイッチ



押すと自動駐車ブレーキのON／OFFを切り替えます。

ランプが点灯している状態(自動駐車ブレーキON)で操向レバーを中立にすると自動で駐車ブレーキがかかり、走行中は自動で駐車ブレーキが解除されます。

ランプが消灯している状態(自動駐車ブレーキOFF)では常に駐車ブレーキが解除されます。自動駐車ブレーキのON、OFFと実際の駐車ブレーキの「入」、「切」の関係は次の表の通りです。

駐車ブレーキ 「入」、「切」		キースイッチ		操向レバー	
		ON	OFF	中立	中立 以外
自動駐車 ブレーキ (ランプ)	ON (点灯)	入	入	入	切
	OFF (消灯)	切	入	切	切

キースイッチをONにすると、自動で駐車ブレーキ「入」の状態になり、自動駐車ブレーキのランプが点灯します。

### 警告

停車する際は必ず自動駐車ブレーキランプが点灯していることを確認してください。さもないと機械が動き出し、思わぬ事故につながる可能性があります。

## 9. DPF装置(ディーゼル微粒子の除去装置)のはたらきと取扱い

### 警告

\*排気ガス中毒になるおそれや、DPF再生中の高温状態の排気管やマフラに接触してヤケドや火災が発生する原因となるため、下記事項を遵守してください。

- ・納屋や倉庫など換気の悪い場所では、再生処理を行わないでください。
- ・再生処理を行う前には、排気管やマフラおよび周辺部に、発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取り除いてください。
- ・DPF再生中は、排気管やマフラおよび周辺部に人を近付けないでください。また、本機からは離れないでください。

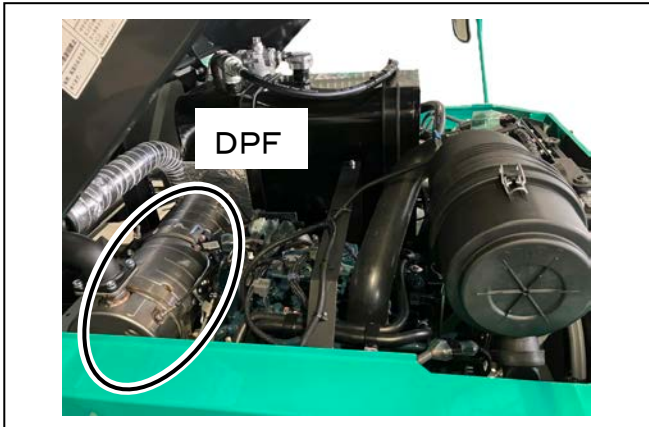
DPF(ディーゼル・パーティキュレート・フィルタは、ディーゼルエンジンから排出される排気ガス中のPM(ススなど粒子状物質)をフィルタで捕集し、大気中に放出されるPMの量を削減させます。捕集したPMをDPF内で燃焼させてPM除去フィルタ内を浄化および再生します。また、DPFの再生処理方法には自動再生と駐車再生の2通りがあります。

# 運転に必要な装置の取扱い

通常は、散布作業時を含む本機の運転中は自動再生モードになっています。自動再生モード中は、DPF内にPMが堆積されると自動再生機能がはたらき、PMを自動的に除去します(自動再生処理)。また、PMがDPF内に堆積し、駐車再生の警報が発生したときは、駐車再生処理を行って堆積したPMを除去してください。

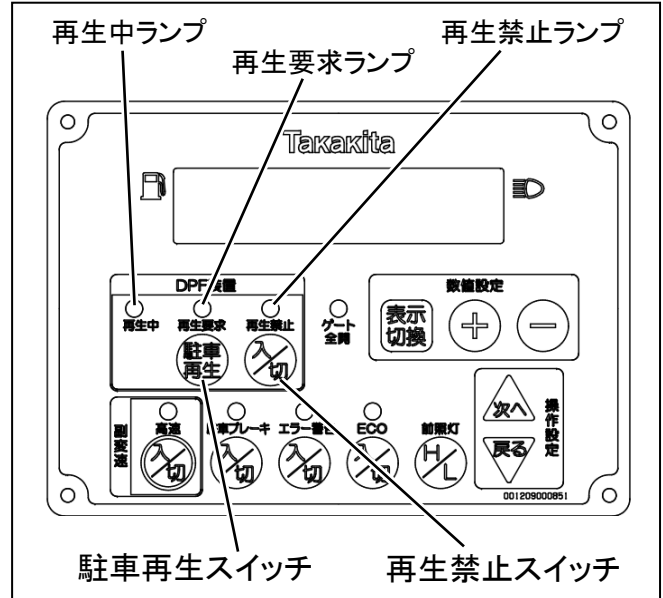
通常、再生処理には10～30分程度かかります。再生処理にかかる時間は、外気温度・排気温度・エンジン回転数によって変わります。

再生処理終了直後は、DPF(および排気管・マフラ)はまだ高温です。排気装置(DPF・排気管・マフラ)を冷却するために、5分間程度エンジンの運転を継続することをお勧めします。



## ◆DPF装置(コントロールボックス)

DPF内のPM除去処理を行うスイッチや、DPF内のPM除去の状態を知らせるランプがあります。DPF内に堆積したPMの除去については、各スイッチの操作やランプ表示の確認を行ってください。



### 再生中ランプ

DPF内に一定量のPMが堆積したとき、自動再生または駐車再生の処理を開始すると点灯(再生処理中)し、再生の処理が終了すると消灯(再生処理終了)する再生処理状態を知らせるランプです。ランプが点滅している場合は、DPF内の異常を表します。自動再生および駐車再生はできません。直ちに購入先に連絡してください。

自動再生処理を開始しても警報ブザーは鳴りません。

### 駐車再生スイッチ

PMがDPF内に一定量堆積すると、再生要求ランプが点滅すると同時に、警報ブザーが鳴ります。その際にPMを除去するため、駐車再生処理を行うスイッチです。駐車再生処理を行うとき、駐車再生スイッチを押すと同時に、再生要求ランプが点滅から

## 運転に必要な装置の取扱い

点灯に切り換わります。また、再生中ランプも点灯します。駐車再生処理が終わると、再生要求ランプおよび再生中ランプは消灯します。駐車再生方法については「◆DPF再生処理方法について」を参照してください。

### 再生禁止スイッチ

再生処理を禁止(停止)するスイッチです。納屋や倉庫など換気の悪い場所や、DPFやマフラおよび周辺部に発火する原因となる燃えやすいゴミがあった場合など、一時的に再生処理を禁止(停止)するときにスイッチを押してください。自動再生または駐車再生の処理中に再生禁止スイッチを押すと、同時に再生禁止ランプが点灯し、再生処理を停止します。また、再度再生禁止スイッチを押すと、再生禁止ランプが消灯すると同時に自動再生または駐車再生の処理が可能な状態となります。

再生禁止スイッチ「入」の状態は、エンジンを停止すると解除されます。キースイッチを「切」位置から「入」位置にすると、再生禁止スイッチは常に「切」(ランプ消灯)の状態です。

### ◆DPF再生処理方法について

DPFの再生処理方法には、自動再生と駐車再生があります。

### 注意

●再生要求ランプが点滅し、警報ブザーが鳴ったときは、散布作業を中止し、駐車再生処理を行ってください。

このとき再生中ランプも点滅し、駐車再生ができない場合は、直ちに購入先に連絡してください。DPFの故障の原因となります。

●駐車再生の警報を無視し続けると、エンジンの出力が低下します。また、エンジン出力が低下した状態が継続し、作業能率が低下しますので注意してください。

●再生処理を行うとき、自動再生処理と駐車再生処理でエンジン回転数が異なりますので注意してください。

●指定の純正エンジンオイル

(DH-2 D10W-30)以外のエンジンオイルを使用すると、再生処理(自動再生及び駐車再生)を行う頻度が増加し、作業能率の低下や燃料消費量の増加の原因となりますので、必ず指定のエンジンオイルを使用してください。

### ◆自動再生処理について

キースイッチを「切」位置から「入」位置にすると、自動再生モード(「再生禁止」スイッチ「切」)になります。

1. PMが堆積すると、再生状態ランプが点灯し自動再生を開始します。  
自動再生を開始すると、コントロールボックスに「DPF サイセイチュウLv1」と表示します。
2. 自動再生が終了すると、再生状態ランプが消灯します。

### ◆駐車再生処理について

PMがDPF内に一定量堆積したときには駐車再生処理を行ってください。

1. PMが一定量堆積すると、駐車再生ランプが点滅すると同時に、警報ブザーが鳴ります。  
警報ブザーは駐車再生処理を開始するまで鳴り続けます。「再生禁止」スイッチで警告音、表示を消すことができます。

## 運転に必要な装置の取扱い

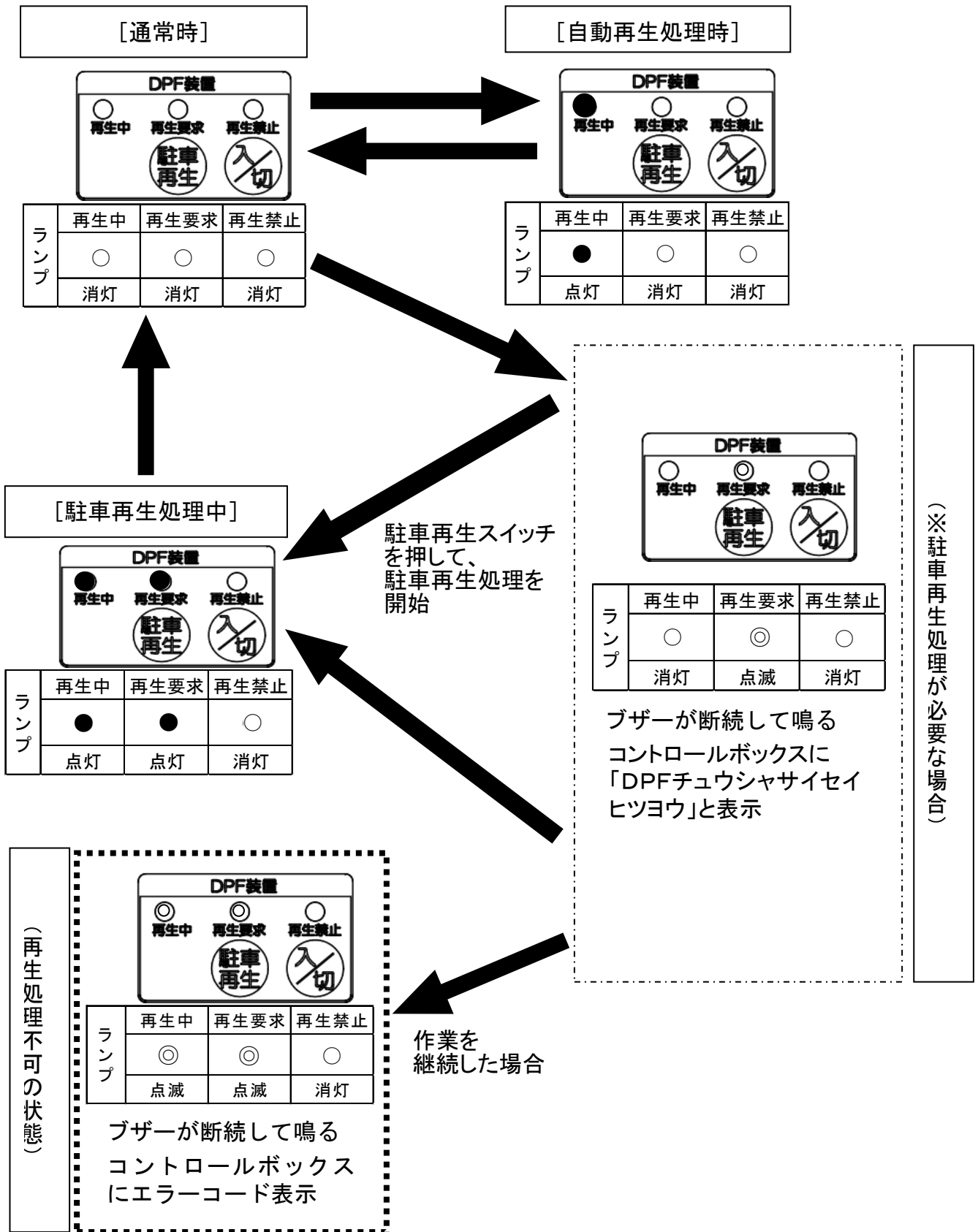
2. 作業をいったん中止したあと、平坦な場所に移動します。  
換気の悪い納屋や倉庫などへは移動しないでください。
3. 各レバー、スイッチを次記の駐車再生処理条件の状態にセットします。
  - (1) 散布スイッチを切ります。
  - (2) 前後進レバーを中立位置にします。
  - (3) 駐車ブレーキがかかった状態にします。
  - (4) エコ作業をOFFにして、ロータリボリュームを「低」状態にします。
  - (5) 「再生禁止」スイッチを確認し、再生禁止ランプが「入」(ランプ点灯)の状態のときは、再生禁止スイッチを押して「切」(ランプ消灯)の状態にします。
4. 駐車再生スイッチを押すと、エンジン回転数が上がると同時に、再生要求ランプと再生中ランプが「入」(ランプ点灯)状態となり、駐車再生処理が開始します。  
駐車再生処理を開始すると、コントロールボックスに「DPFチュウシャサイセイチュウ」と表示されます。
5. 駐車再生処理が終了すると、エンジン回転数がアイドリング回転数まで下がると同時に、駐車再生ランプと再生状態ランプが「切」(ランプ消灯)状態に切り換わります。

### 注意

駐車再生処理中に、各レバー、スイッチは触らないでください。駐車再生処理条件の状態が解除されると、駐車再生処理が途中で停止するため、再度駐車再生処理を行う必要があります。緊急で駐車再生処理を停止したい場合は、再生禁止スイッチを押してください。

# 運転に必要な装置の取扱い

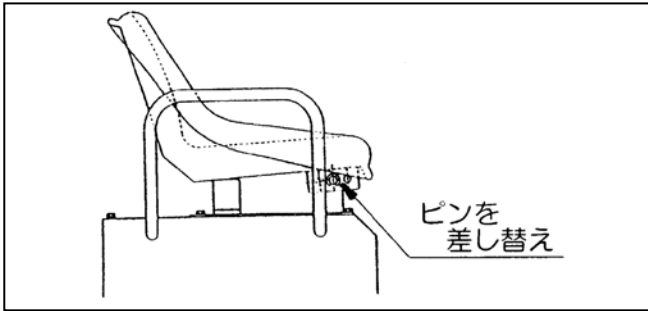
再生禁止スイッチを利用しないときのコントロールボックスのランプ、ブザーおよび表示の主な関係は次の通りです。



※この状態になると再生処理はできません。  
直ちに作業を中止し、購入先に連絡してください。

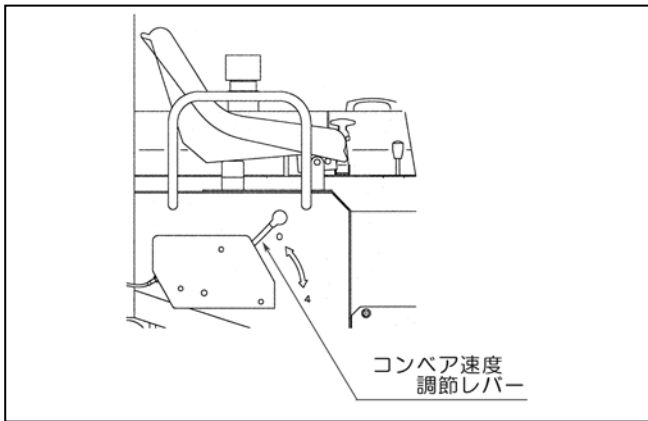
# 運転に必要な装置の取扱い

## 10. シートの調整



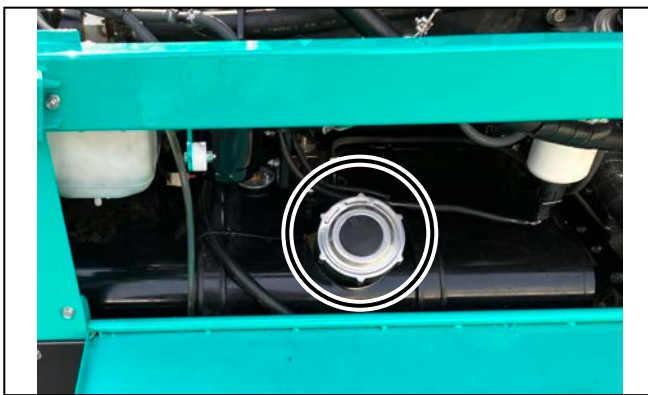
シートは、取り付け部のピンを差し替えて、前後3段階に調節できます。

## 11. コンベア速度調節レバー



コンベア速度は4段階に調節ができます。「0」は停止です。「1」→「4」の順に速くなります。レバーを調節する時は散布スイッチを「入」にしてビータを回転させながら行ってください。

## 12. 燃料給油口

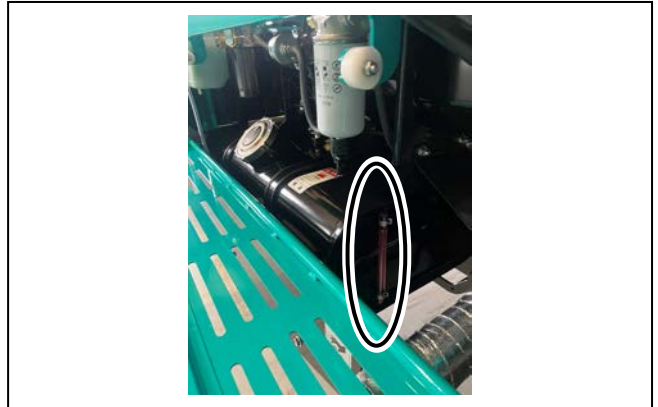


使用燃料は軽油です。  
燃料タンク給油口のキャップを外して給油してください。  
燃料タンクの容量は60リットルです。

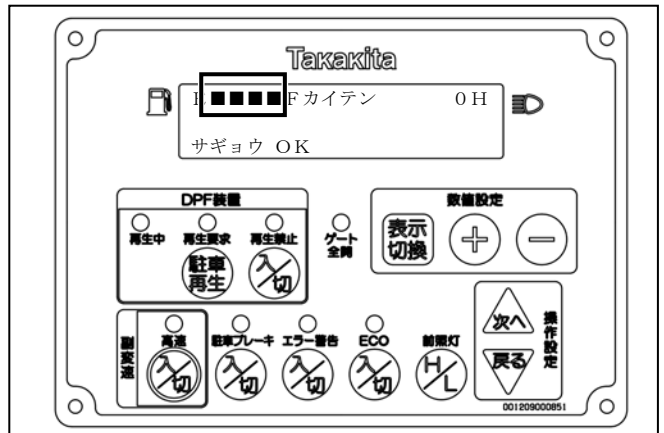
## 注意

軽油以外の燃料の使用は、エンジンの不具合・損傷の原因となります。絶対に使用しないでください。

## 13. 燃料ゲージ



機体側面の燃料タンクカバーを開けると、燃料ゲージが燃料タンク側面にあり燃料レベルが見えるようになっています。給油時に燃料がどの程度入ったか確認するのに使用してください。



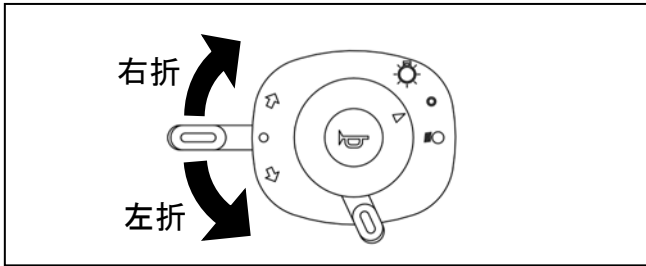
コントロールボックスの左上に表示される4目盛りで、燃料の残量を表しています。燃料ゲージが10%以下になると最後の1目盛りが点滅し、断続音で警告します。

# 運転に必要な装置の取扱い

## 14. コンビネーションスイッチ、ハイビーム

### ◆ウインカースイッチ

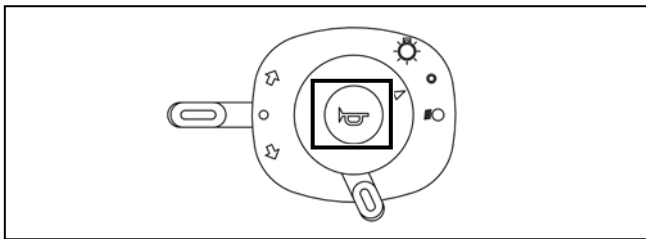
方向指示器を点滅させるときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、旋回する側の矢印方向スイッチを回すと、方向指示器が点滅します。

### ◆ホーンスイッチ

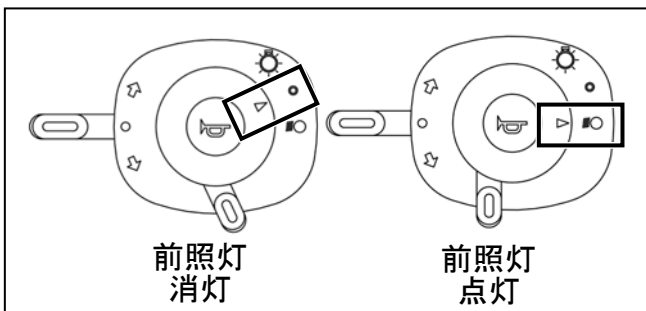
ホーンを鳴らすときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、ホーンスイッチを押すと警報音が鳴ります。

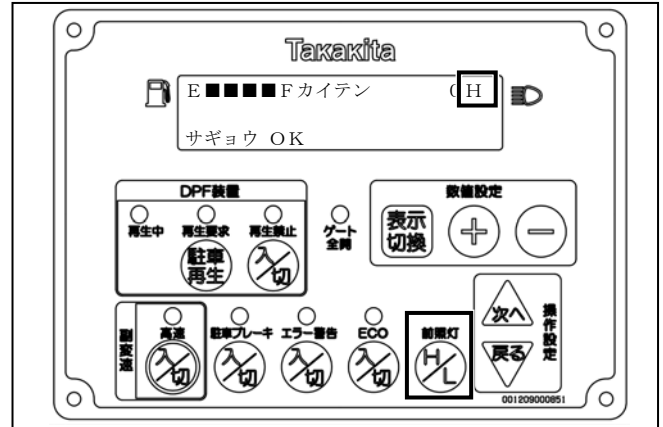
### ◆ライトスイッチ

前照灯を照射するときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、ライトスイッチを点灯側に倒すと、前照灯が点灯します。

### ◆ハイビーム



前照灯灯火時にコントロールボックスのハイビームボタンを押すことでHと表示され、ハイビームが点灯します。夜間作業時に使用してください。

## 15. 後退灯、バックブザー



操向レバーを後退方向に倒すと後退灯が点灯し、バックブザーから断続音が鳴ります。

## 16. USBソケット

USBソケットを標準搭載しています。電子機器の充電に使用してください。



USB TypeA 上:5V 1A  
下:5V 2.1A

## 作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

### 警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。  
やけどをするおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対に使用しないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災の原因となります。
- 点検・整備は必ずPTOを切りエンジンを停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。

### 点検一覧表

No.	項目	内容	参照ページ	チェック
1	前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行われているか	—	
2	損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
3	クローラの張り	適正な張力	48	
4	エンジンオイル	オイル量と汚れ、油もれはないか	42	
5	エンジンの燃料	燃料の量は十分か、油もれはないか	45	
6	エンジンのエアクリーナ	エアクリーナフィルタの汚れはないか	47	
7	油圧オイル	オイル量は十分か、油もれはないか	43	
8	バッテリー	バッテリー液量は十分か	46	
9	ヒューズ	ヒューズ切れはないか	50	
10	コンベアチェーンの張り	張りは適正か、張り代に余裕はあるか	48	
11	各部への注油・グリスアップ	各部への給油は十分か	55	
12	散布スイッチ	停止、回転の作動確認	17	
13	左右の操向レバー	スムーズな作動をするか	17 49	
14	保安部品	灯火は正常か、エラーは出ないか	33	

### 点 検 メ モ

---



---

# 運転のしかた

## 1. 新車の取扱い

新車は、使用時間50時間までの取り扱いが大変重要です。この時期以後の自走式マニアスプレッダの寿命、性能に大きく影響します。

### ◆最初の50時間目の手入れ

エンジンオイルを交換してください。  
(オイル型式：DH-2 D10W-30)

### ◆最初の50時間までの取扱い

- ①重作業、急発進、急ブレーキなどは避けてならし運転をしてください。無理な作業をすると摩耗を早めます。
- ②コンベアチェーンの張り具合を確認、調節を行ってください。

### ◆作業する前に

- ①空ふかしはやめてください。
- ②ボルト、電気配線などのゆるみ、油もれの確認、その他不良はないか確認してください。

## 2. 走行順序

### ⚠ 注意

- 発進するときは周囲の安全を確かめて発進してください。
- 作業中および移動時は、安全のためにヘルメットをかぶりシートベルトを着用してください。
- 作業者の他に人を乗せないでください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は路肩に充分注意してスピードを落として走行してください。

- ① 操向レバーを中立(N)位置にします。
- ② 散布スイッチを「切」にします。
- ③ キースイッチを「ON」位置にして駐車ブレーキがかかっていることを確認してから、キースイッチを「ST」位置にしてエンジンを始動します。

- ④副変速スイッチを「高速」「低速」のいずれかにします。

現場の状況や積載重量に合わせて、速度を決定してください。

- ⑤エコ作業モード ON もしくはロータリボリュームを回してエンジン回転を上げます。
- ⑥操向レバーを操作すると走行します。

### 注意

- キースイッチを「ST」にし、セルスタータを回して10秒たっても始動しない時は、一旦キースイッチを「OFF」にして30秒ほど休止してからエンジンを再始動してください。15秒以上のセルスタータを連続して使用すると、故障の原因になります。
- エンジン回転中はキーを「ST」位置にしないでください。セルモータが破損します。

## 3. 停止順序

- ① 駐車ブレーキランプが消灯している場合は駐車ブレーキスイッチを押し、駐車ブレーキランプを点灯させてください。
- ② 操向レバーを中立(N)位置にします。  
(自動で駐車ブレーキがかかります)
- ④ エコ作業モード OFF もしくはロータリボリュームを回し、エンジン回転数を下げます。
- ⑤ キースイッチを「OFF」にします。

### 注意

- 停止後は必ずキースイッチを切り、キーを抜いてください。  
キースイッチを入れたままにしておくと、バッテリー上がりの原因になります。

### ⚠ 警告

傾斜地の停車ではエンジン停止後、下側のクローラと地面の間に車止めをしてください。

さもないと機械が動き出し、思わぬ事故につながる可能性があります。

# 運転のしかた

## 4. トラックへの積み込み・降ろし

長距離の移動はトラックで行いますが、積み込み・降ろしの際は次の要領で行ってください。  
思わぬ事故につながる可能性がありますので積み込み、降ろしとも十分に注意してください。

### 警告

- 積み込み・降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実にかけてください。
- 周囲は機械が不意に動いたときに危険ですので立たないでください。
- 操向レバーを操作して、アユミ板の上で進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒するおそれがあります。
- アユミ板とトラックの継ぎ目を越える時は、急に重心が変わりますので十分に注意してください。特に、スピードの速いときには転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

- ① トラックおよびトレーラへの積み込み・降ろしは平坦地を選び、補助者1名の立ち合いのもとで行ってください。
- ② 積み込み・降ろしに使用するアユミ板は、滑り止めの加工のある、3000kg以上の荷重に耐えられるものを使用し、地面との傾斜角度が15度以内になる長さのものをご使用ください。
- ③ アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実にかけて、外れないことを確認してから本機を降ろしてください。

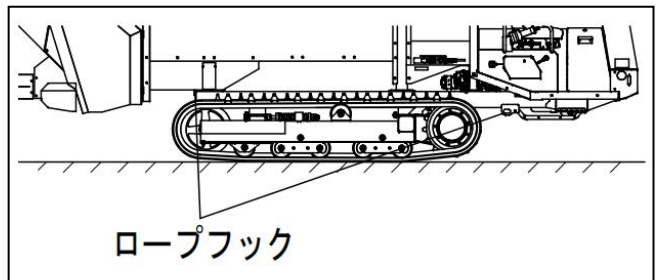
- ④ 積み込み、降ろしの時の変速レバーは「低速」に入れ、最低速度で安全運転をしながら行ってください。
- ⑤ トラックおよびトレーラへの積み込みは、必ず、前進走行で行ってください。



## 5. トラックおよびトレーラでの運搬

### 警告

丈夫なロープをクローラ上部の「ロープフック」にかけ、確実に固定して、自走マニアスプレッドの駐車ブレーキを掛けてください。  
守らないと、トラックの急ブレーキをかけた時などに荷台から自走マニアスプレッドが転落するおそれがあります。



自走マニアスプレッドを運搬するときは、積載量4.0t以上で十分な広さを有するトラックまたはトレーラを使用し、運転時には坂道やカーブに注意して、安全な速度を厳守してください。  
燃料満載時の本機の機体重量は2,900kgです。

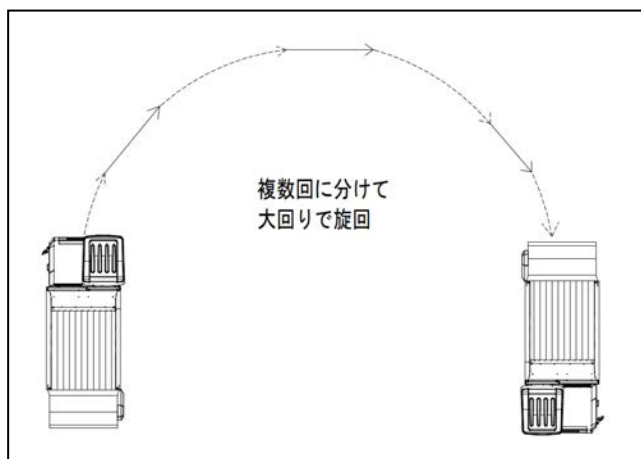
## 運転のしかた

### 6. 旋回するとき

旋回するとき、速度を十分に落とし複数回に分けて大回りで旋回するようにしてください。

#### 注意

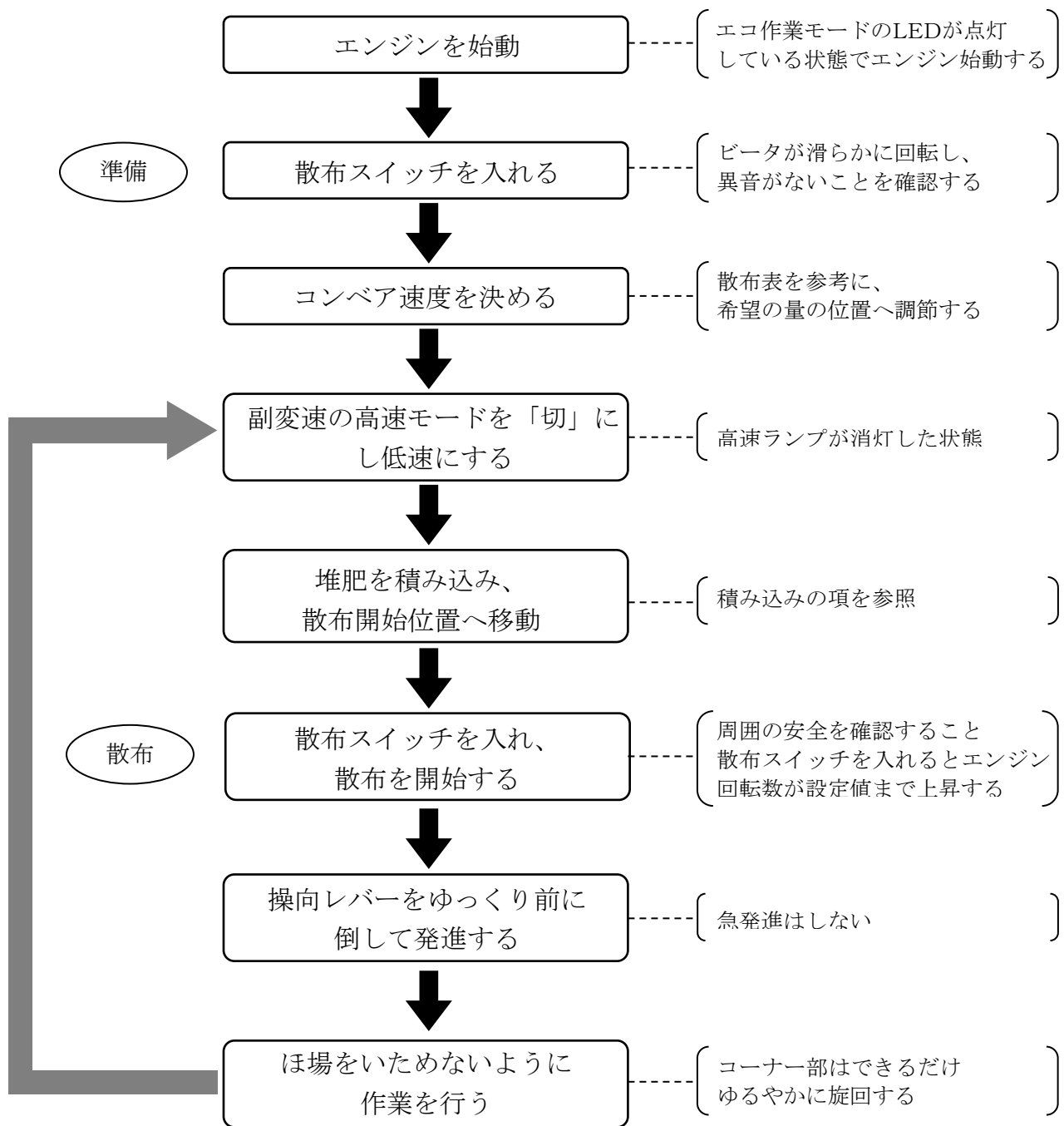
- 特に副変速「高」のときや、積載状態での急旋回はしないでください。クローラ外れの原因や、テンリンの摩耗を早めることに繋がります。



# 作業方法

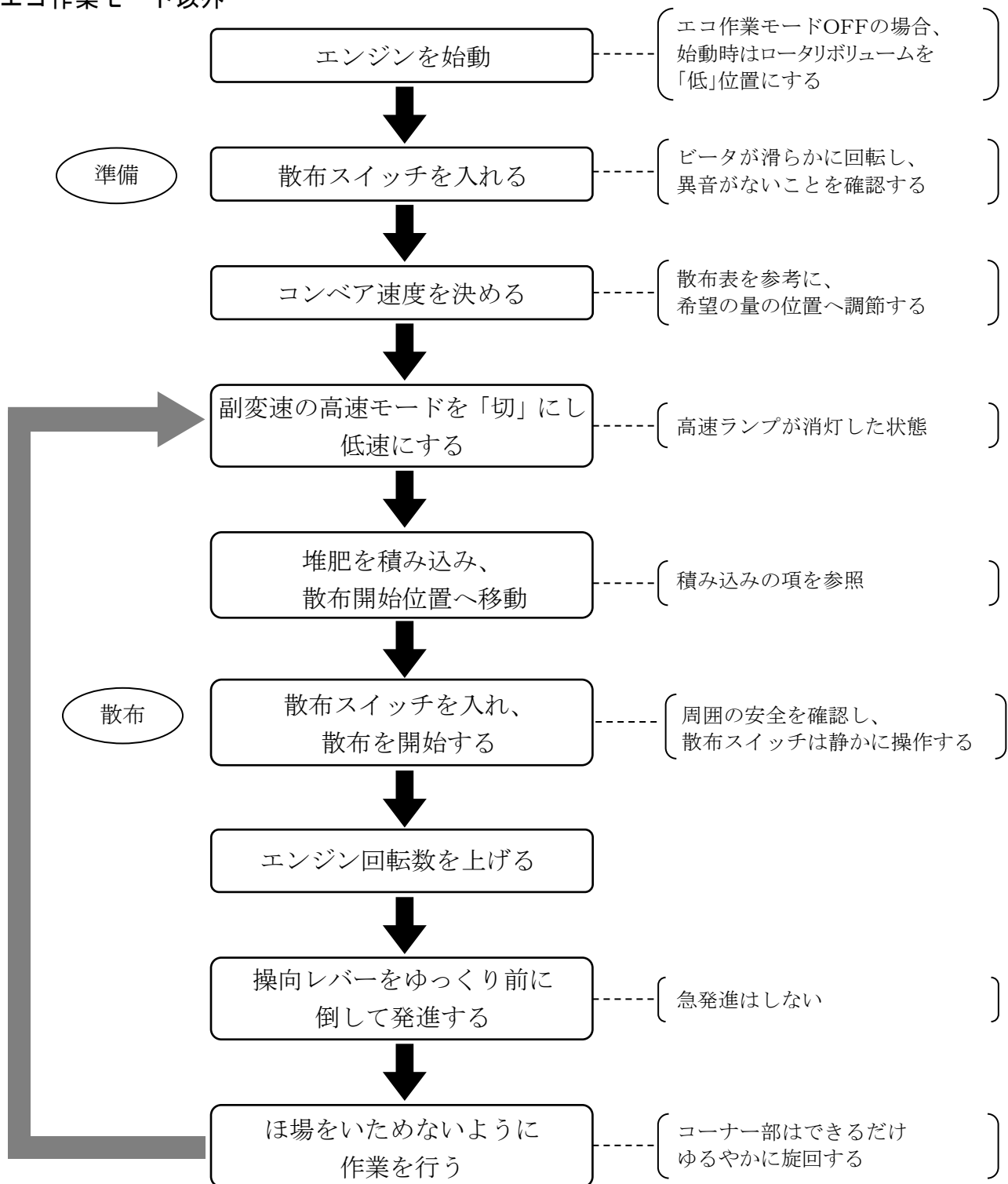
## 1. 作業手順と要点

### ◆エコ作業モード



# 作業方法

## ◆エコ作業モード以外

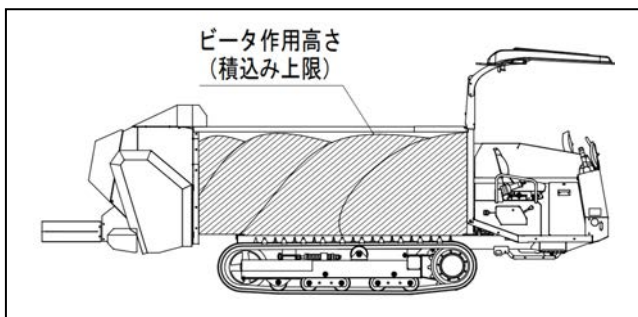


# 作業方法

## 2. 堆肥の積み込み

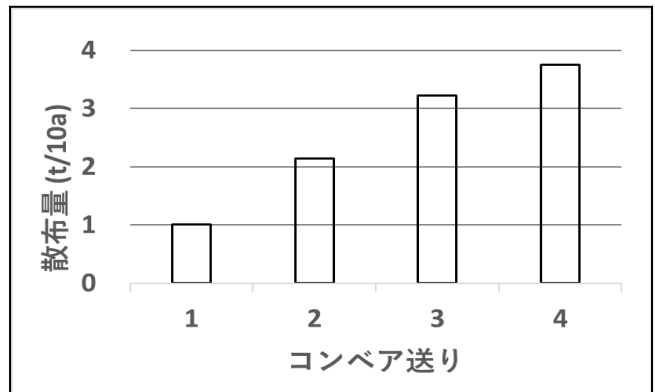
### 警告

- 堆肥に石や木片が混入すると危険です。積み込み時には十分注意してください。
- 本機の積載量は3,000kgです。規定以上の積み込みを行うと、機械の破損だけでなく、安全走行・作業が行えません。十分注意してください。



- ①堆肥を荷台に積み込む場合には、前方から後方の順に積み込むと、堆肥がほぐれやすくなります。また、積み込み高さは、ベータの作用高さまでとしてください。それ以上の積み込みは、堆肥のこぼれや散布ムラ、機械故障の原因となります。また、ワラ入り未完熟堆肥のような負荷の大きい堆肥を散布する時は、積み込み量を若干少なくするようにしてください。
- ②堆肥の積み込みは、本機を水平な場所に移動し、エンジンを停止してから行ってください。

## 3. 散布量の調節



堆肥の散布量は、送りコンベア速度と車速（作業速度）とで調節します。コンベア速度は、コンベア速度調節レバーで4段階に調節できます。上表の散布量表は、エンジンを「全開」、副変速は「低」にして操向レバーを前進最大にして行ったときの理論散布量を示します。

### 注意

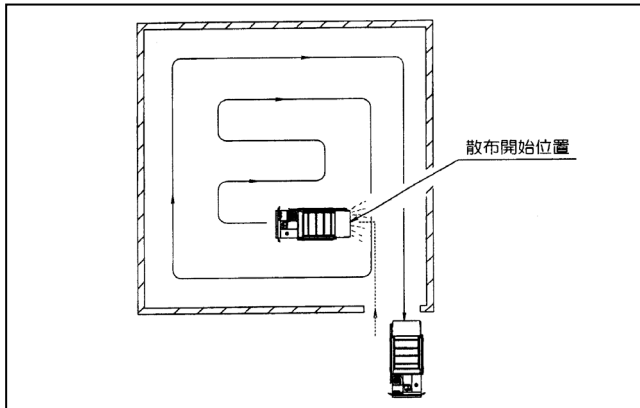
- コンベア速度はむやみに速くすると、エンジンや堆肥の送り機構に無理な力がかかります。特に生わらや水分の多い未完熟堆肥等は、コンベア速度を「2」以下で使用してください。
- 散布表はあくまでも目安としてください。堆肥の状態により散布量は異なってきますので、実際の散布量を見て調節してください。

### 警告

回転中のベータ・コンベアバー・コンベアチェーンに巻き込まれると重傷を負います。手や足で絶対に触れないようにしてください。

# 作業方法

## 4. 散布方法



散布方法は、ほ場の中央部より外側に向かって散布します。

中心部は往復散布、ほ場の外側は廻り散布を行うと能率的に散布でき、クローラへの堆肥付着も少なくてすみます。

### 注意

- 散布は副変速「低」で行ってください。
- 傾斜地では、作業に十分注意して安全速度で行ってください。

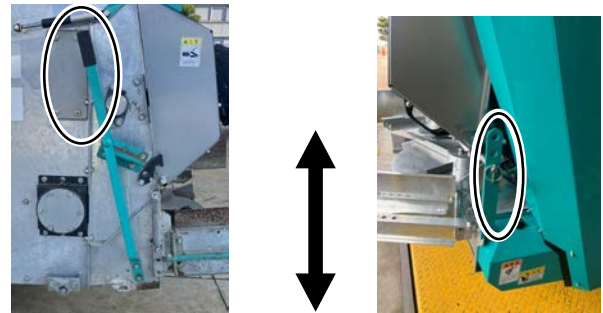
### ⚠ 注意

- 散布作業は、周囲に人がいないか十分に確認してから行ってください。
- 散布中は、堆肥中に混入した小石などが前方へ飛散する場合がありますので決して荷箱内へ顔を出さないでください。

## 5. ディスクの角度調整

散布部のディスクは角度を3段階調整できます。散布幅、散布跡の厚さ調整が可能です。ショウコウレバーで穴位置を合わせリンチピンで固定してください。ディスクの角度を下向きにすると幅狭・厚撒き、上向きにすると幅広・薄撒きとなります。

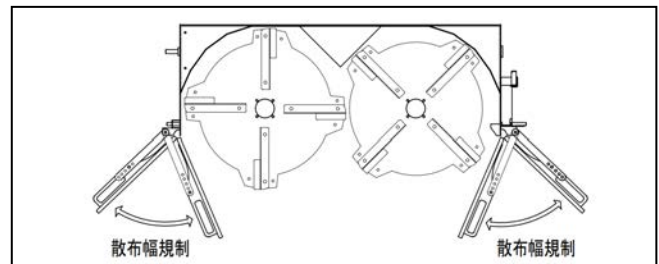
### ショウコウレバー



機体左側 ディスクの上下 機体右側

## 6. 散布幅規制

畔際等で、散布幅を規制するときには使用します。ディスクガイドとガイドプレートの穴を希望の位置で合わせ、リベットピンおよびアールピンで固定してください。5段階に調整が可能です。



# 簡単な手入れと処置

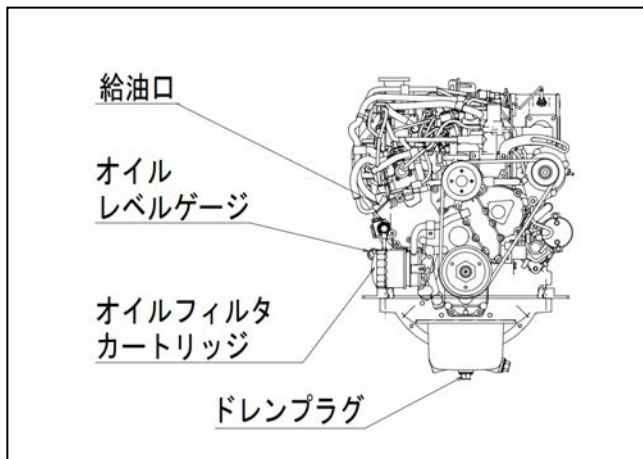
## 1. エンジンの点検・調整

※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」も必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全の注意を払ってください。

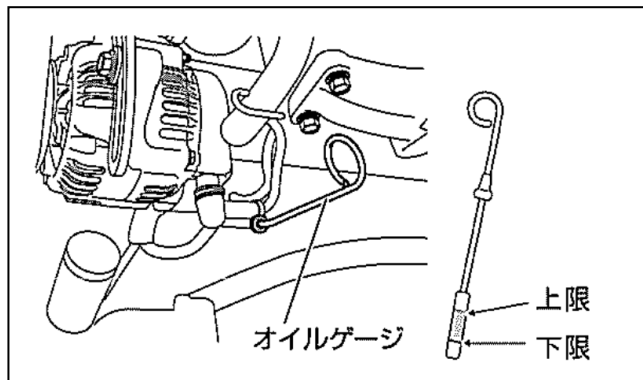
## 2. エンジンオイルの点検および交換

オイルの交換は、温まっている状態で行ってください。古いオイルの排出が容易です。オイルは指定のオイルを使用してください。また、オイル交換は水平な場所で行ってください。

### ◆エンジンオイル量の点検



- ①ドレンプラグを外し、古いオイルを完全に排出します。
- ②ドレンプラグを綺麗に洗い、確実に締めます。
- ③エンジンオイル9.7L(DH-2 D10W-30)を給油してください。
- ④新しいオイルが規定量まで入っているか確認してください。



エンジンオイルは指定のものを使用してください。

こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

### ●エンジンオイル交換

初回	:	50時間目
以後	:	100時間ごと
指定オイル	:	DH-2 D10W-30
オイル容量	:	9.7L(ハイレベル)

### ! 注意

熱いオイルが体にかかると火傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

### ◆オイルフィルタカートリッジ

エンジンオイルを排出した状態でフィルタカートリッジを外します。

新しいカートリッジのシール部にオイルを薄く塗り、手でカートリッジを十分に締め付けます。200時間毎に新しいフィルタと交換してください。

### ●オイルフィルタ交換

200時間毎

### 注意

カートリッジを交換した時は、エンジンオイルが少なくなりますので、オイルゲージでオイル量を必ず確認し、規定油面まで補給してください。

オイルフィルタ同時交換時はエンジンオイル9.9L(DH-2 D10W-30)を給油してください。

しばらく運転した後、シール面からの油もれがないかを確認してください。

# 簡単な手入れと処置

## ⚠ 注意

エンジン停止直後はマフラやマフラカバー、ラジエータ、配管、ポンプ、モータ、エンジン本体、冷却水およびエンジンオイルが熱くなっています。手や肌が触れると、やけどの危険があります。

オイルの点検、補給、オイルやオイルフィルタカートリッジの交換は、安全な温度まで下がった状態で作業してください。

### 3. 油圧オイル

オイル量がゲージの中央まであることを確認してください。不足している場合は給油してください。油圧オイルの冷えているときに確認してください。

給油の際は、オイル量の上限がステッカーを超えないように注意してください。

油圧オイルが急に不足した場合は、油もれを点検してください。給油時は絶対にゴミを入れないよう注意してください。

#### 注意

ステッカー以上にオイルを入れると傾斜地などでオイルが漏れ出る可能性があります。



#### ●油圧オイル交換

初回 : 100時間目  
以後 : 500時間ごと  
昭和シェル ステラオイル  
指定作動油 : VG46  
オイル容量 : 全量約50L  
(タンクのみ70L)

### 4. オイルフィルタ

油圧オイルタンク内のサクシヨンフィルタおよび油圧オイルタンク外のラインフィルタを指定時間

ごとに清掃または交換してください。

サクシヨンフィルタの清掃または交換時は、作動油を抜いてからタンク前側のボルト留め部を外してサクシヨンフィルタを取り出してください。

#### サクシヨンフィルタ (タンク内部)



#### ラインフィルタ



確認窓

#### ●サクシヨンフィルタの交換

初回 : 100時間目  
以後 : 500時間ごと  
サクシヨンフィルタ : 大生工業(株)  
SFT-08-150W  
品番 : 28102-7654-000

#### ●ラインフィルタの交換

初回 : 100時間目  
以後 : 500時間ごと  
または確認窓内部が赤に変色したとき  
ラインフィルタ : 大生工業(株)  
(予備エレメント) 351-B-08-10U  
品番 : 47238-3651-000

### 5. 油圧ホース

油圧ホースに亀裂、局部的なふくらみがないか、ホース口金具に損傷や緩みがないか確認してください。

#### ●油圧ホース交換

2年毎

## ⚠ 注意

ホースを外す場合には、必ずエンジンを停止してから行ってください。守らないと、高温高压油によりけがをする危険性があります。

## 簡単な手入れと処置

### 6. ラジエータの点検

#### ⚠ 注意

ラジエータキャップはエンジン運転中または停止直後に開けると熱湯が噴出し、火傷をする危険性がありますので、エンジン停止後30分以上経過し冷却水が冷えてから開けるようにしてください。

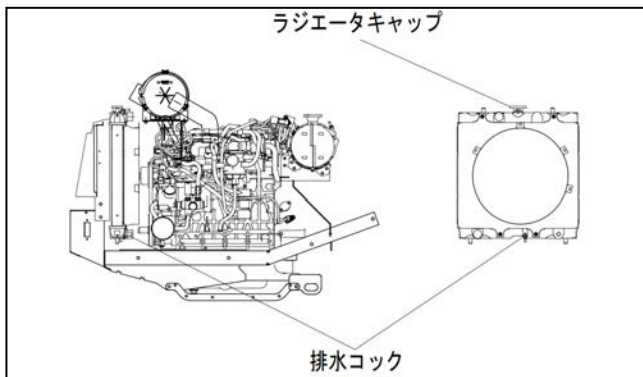
#### ◆冷却水の交換

①ラジエータの排水コックを緩め、ラジエータキャップを開いて冷却水を排出します。排水が終了したら排出コックを締めて冷却水を入れます。冷却水の容量は3.7リットルです。

②ご購入の時点で不凍液が入っていますので、 $-25^{\circ}\text{C}$ まで凍結しません。

冷却水の交換時、水道水など真水だけを使用すると、冬期間に凍って、ラジエータやシリンダブロックなどを破損させるおそれがあります。パーマネントタイプを利用し、水道水と混合してください。

混合率はメーカーにより異なりますので、メーカーの注意に従ってください。



#### 注意

不凍液には防錆剤が入っています。種類の異なる不凍液や防錆剤は混合しないでください。

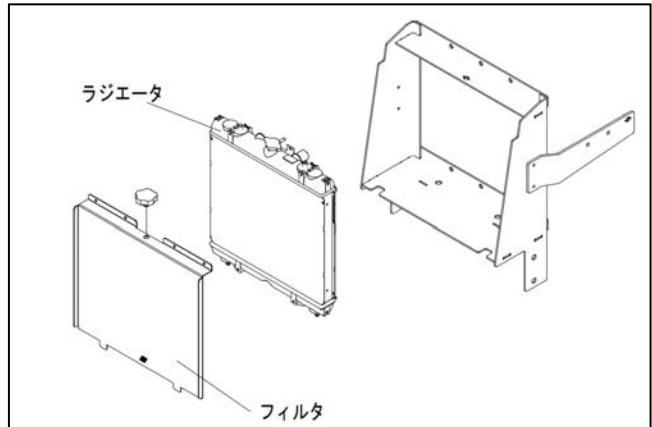
混合するとスラッジが発生して、エンジン各部に悪影響を与えます。また、不凍液の有効使用期限は2年です。

期限を過ぎると、防錆効果が次第に悪くなります。

#### ◆ラジエータの点検について

ラジエータのフィンにゴミ等が詰まると冷却効率が悪くなりエンジンのオーバーヒートに繋がります。

ラジエータのつまりがないかを定期的に点検清掃を実施してください。



#### ●点検方法

フィルタを外して、ラジエータのフィンの詰まりを確認してください

#### 注意

ヘラやドライバーなどの固いものでフィンを清掃しないでください。特殊フィンを傷めラジエータの機能をなくす原因になります。フィンの奥の方は圧縮空気で清掃してください。

#### ◆ラジエータホースの点検

ラジエータホースの締め付け点検は、約150時間運転毎に、または6ヶ月毎に行ってください。

①締め付けバンドが緩んでいる場合は、ネジ部にオイルを塗布して確実に締め付けてください。

②ラジエータホースはゴム製品ですので、使用しなくても老化する消耗品です。2年毎に新品と交換してください。なお、その際に締め付けバンドも新品と交換して確実に締め付けてください。

## 簡単な手入れと処置

### 7. 燃料について

本機で使用する燃料は軽油です。  
燃料は非常に燃えやすく危険です。  
取扱いには充分注意してください。

#### ⚠ 注意

- 燃料の補給、燃料フィルタの清掃・交換・燃料パイプの交換など燃料系統の整備時は必ずエンジンを停止して、くわえタバコや火気の近くで作業しないでください。
- 上記燃料系統の整備時は、風通しの良い広い場所で行ってください。
- こぼれた燃料が高温部で着火する可能性のある場合は、エンジンが冷えてから作業してください。
- こぼれた燃料はいつもきれいに清掃してください。

#### ◆燃料の補給

スタンドでは全国の地域別、季節別の軽油使用ガイドラインに基づき、地域、季節に見合った種類の軽油が販売されています。季節をまたいで使用する場合は、特に問題となりますのでご注意ください。

軽油のJIS改正により、夏期および暖地向けとして特1号軽油が追加になりました。この軽油は成分中に含まれるパラフィン分が多く、気温が5℃以下になると燃料中にワックスが発生し、流動性が悪くなります。このため、エンジンの始動が困難になったり、始動しても運転が継続できなくなりますので、次の内容に注意してください。

#### ⚠ 注意

燃料タンクと油圧オイルタンクを間違えないよう注意してください。  
誤って入れると故障の原因となります。



燃料タンク  
(軽油)



油圧オイルタンク  
(VG46)

#### ◆給油タンク置台

燃料タンクカバーを開けると給油タンク置台として使用できます。給油タンク置台の最大耐荷重は20kgです。



#### 注意

- 軽油を購入する際は、何号軽油か、いつまで使用可能か購入先で必ず確認し、容器に明記してください。
- 季節をまたいで使用するもの、ドラム缶などで大量に購入するときは、冬期に購入するなど、あらかじめ最低使用温度に合った燃料を購入してください。
- 夏期に軽油を購入する場合は、最低必要限度を購入してください。

## 簡単な手入れと処置

### ◆温度と使用する軽油の種類

軽油は次表の流動点以下になると流れが悪くなります。

軽油の種類	特1号	1号	2号	3号	特3号
流動点(°C)	+5	-5	-10	-20	-30

例えば、作業する時の最低気温が $-8^{\circ}\text{C}$ ならば、2号軽油(または3号か特3号)を使用します。

2号軽油は上表より $-10^{\circ}\text{C}$ まで使用できます。

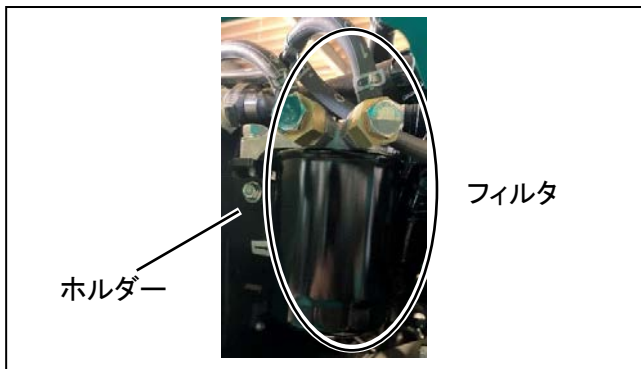
### ◆燃料フィルタ

燃料フィルタは、600時間毎に交換してください。

#### ●燃料フィルタ交換

燃料フィルタ 600時間毎

#### ●燃料フィルタ交換要領



- ①燃料を受ける適当な容器を、燃料フィルタの下に用意してください。
- ②ホースのクリップを外し、燃料フィルタからホースを外します。
- ③ホルダーからフィルタを取り外してください。
- ④新しいフィルタをホルダーに取り付けてください。
- ⑤新しいフィルタ両側にホースを付け、クリップで固定します。

### 注意

取り付ける時は、チリやホコリが付着しない

ように注意してください。燃料内にチリやホコリなどが混入すると、燃料噴射ポンプやノズルが摩耗します。

### ◆燃料パイプの点検

燃料パイプの締め付け点検は50時間使用毎、または6ヶ月毎に行ってください。

- ①締め付けバンドが緩んでいる場合は、ネジ部にオイルを塗布して確実に締め付けます。
- ②燃料パイプや締め付けバンドが傷んでいたり、燃料パイプがきっちりおさまっていない場合は早めに交換、または補修してください。
- ③燃料パイプはゴム製品で、使わなくても老化する消耗品です。2年ごとに新品と交換してください。

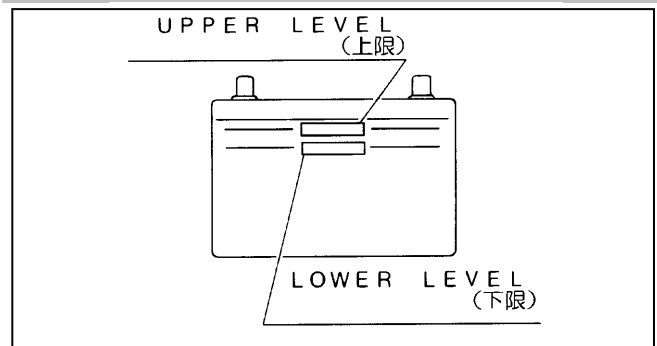
なお、交換の際には締め付けバンドも新品に交換し確実に締め付けてください。

### 注意

パイプを外した時は、ゴミが入らないようにパイプ両側に清潔な布、または紙類で栓をしてください。

ゴミが入ると、燃料噴射ポンプが作動不良になります。

## 8. バッテリーの液量



バッテリーの電解液中の水は、蒸発して減少します。液面が、LOWER LEVEL(下限)とUPPER LEVEL(上限)の間であれば適正です。少ない時は、蒸留水またはバッテリー補充液を補給してください。

#### ●指定バッテリー

JIS115D31R

## 簡単な手入れと処置

### ⚠ 注意

- バッテリからバッテリーケーブルを外す時は(－)側から外し、取り付ける時は、(＋)側から行ってください。逆にすると、工具がマニアスプレッダ本体に当たった場合に、ショートして火花が生じ危険です。
- バッテリにケーブルを接続するときは(＋)と(－)を間違えないようにしてください。もし間違えると、バッテリーや電装品を破損させます。
- バッテリ液は過不足がないようにしてください。多いと液があふれてマニアスプレッダ本体を腐食させ、少ないと、バッテリーの極板が破損し、寿命が短くなります。
- 冬期間は充電不足にならないように注意してください。放電ぎみの場合、電解液が凍り、バッテリー本体を破損させる場合があります。
- 長期間マニアスプレッダを使用しない場合は1～2ヶ月に1度は補充してください。定期的に比重を測定し、バッテリーの状態を確認してください。比重が1.22～1.28あれば正常です。

### ⚠ 危険

バッテリーは引火性ガスを発生しますので、取扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。  
(特に保守、点検、充電、ブースターケーブル使用時には危険のないように取扱ってください。)

#### ● 火気厳禁

- ・・・ショートやスパーク、タバコなどの火気を近づけないでください。  
⇒ 爆発

#### ● 通風のよい所で

- ・・・締めきった場所での使用や充電は危険です。  
⇒ 爆発

#### ● バッテリ液は希硫酸

- ・・・皮膚、目、衣服につくと危険です。  
⇒ やけど、失明

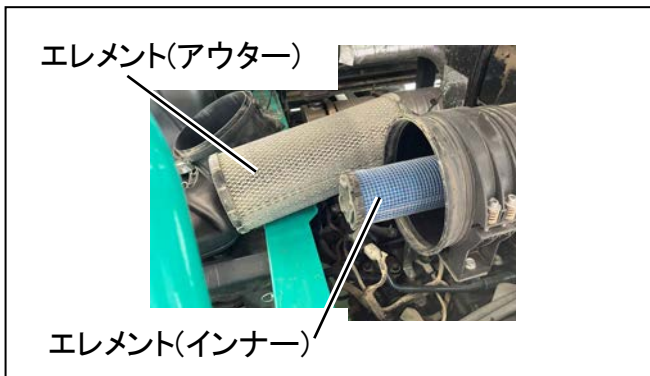
#### 《 応急手当 》

- 皮膚、衣服についた時は、多量の水で洗い流してください。
- 目についた時は、ただちに多量の水で洗い、医療機関を受診してください。

### 9. エアクリーナの点検

- ① 乾式エレメントを使用していますのでオイルを入れしないでください。
- ② 普通の場所では1週間に1回、特にチリやホコリの多い場所では毎日バキューエータバルブを開いて大きなゴミを取り除いてください。
- ③ エレメントは、清掃をする時以外は不要にさわらないでください。
- ④ エレメントの清掃は、エレメントに貼り付けている注意を参照のうえ、行ってください。
- ⑤ エレメントは1年毎または、6回清掃後に交換してください。

## 簡単な手入れと処置

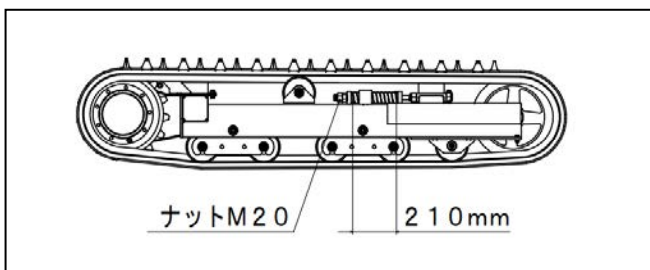


### 注意

エレメントカバー締め付け用クランプは、確実に締め付けてください。締め付けが不十分ですと、ゴミなどを吸い込んでエンジン内部の摩耗を早め、出力不十分になります。



### 10. クローラの点検



クローラの緩み、傷がないか確認してください。

テンションスプリング端のナットM20を締めてテンションを張ってください。

テンションの目安は、テンションバネのバネ長が210mmです。

### 警告

- クローラの点検、調整を行う時は必ずエンジンを停止してください。
- クローラを浮かして点検、調整を行う時は、機体の下に入ったり、クローラの下およびクローラと遊動輪の間に手足を入れないでください。

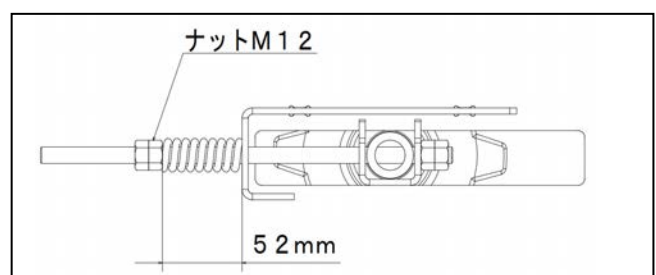
### 注意

- クローラのテンションが緩いとスプロケット歯飛び、クローラ脱輪が起きやすくなります。また、張りすぎると馬力損失、クローラ切断の原因となります。
  - 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。
  - 調整後ロックナットは確実に締め込んでください。
  - 調整後、ボルトのネジ部にグリスを塗布しておく、錆の発生を防ぎ以降の調整が容易となります。
  - 作業中、クローラ内接面に土が多量に付着した場合は、都度エンジンを停止し除去してください。
- また、使用後は付着した土を水洗い除去してください。
- 土嚙みは放置しておく、クローラの異常張力の原因となり走行部の損傷をまねきます。

### 11. コンベアチェンの張り調節

床送りのコンベアチェンは、長期間使用すると伸びが生じます。

作業前に張り具合が規定通りかどうかチェックし、伸びている場合は、機体の前方にあるコンベアチェン張り用のバネで調節してください。バネ長は52mmです。

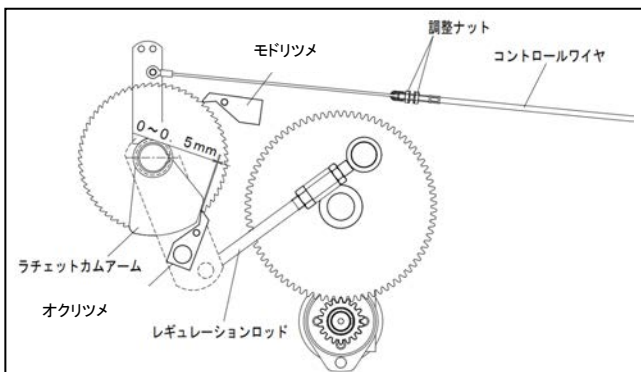


# 簡単な手入れと処置

## 注意

使用初期のころは、スプロケットとコンベアチェーンのなじみが悪く、いきなり使用するとコンベアチェーンが切れる場合がありますので3～4分ならし運転をし、一度コンベアチェーンの張りを点検してから使用してください。

### 1 2. コンベア送り機構部の調節

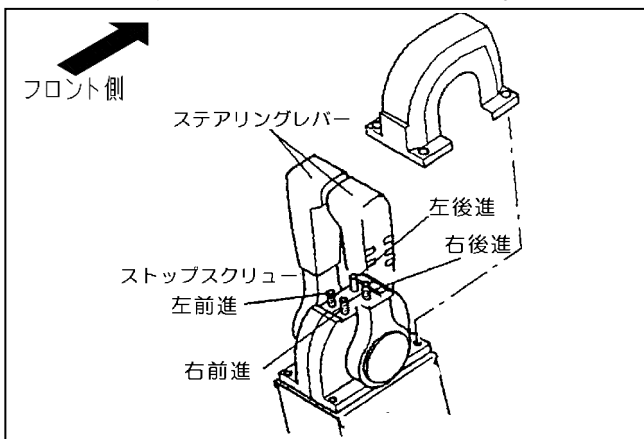


コンベアの送り速度がばらついたり、機構部の部品を交換したときは、コンベア送りのコントロールワイヤを次の要領で調節してください。

- ① ビータを手で回して、レギュレーションロッドが「引き」から「押し」に変わる支点位置にします。
- ② オクリヅメとラチェットカムアームとの間隔が0～0.5mmとなるように、ラチェットカムアームの位置をワイヤケーブルのナットで調整してください。

### 1 3. 操向レバーの調整

直進性を調整するときに行います。



操向レバーをいっぱい倒した時に直進するようストップスクリューで調整します。ストップスクリューをねじ込むと速度が遅くなります。

## 注意

むやみにストップスクリューを緩めると速度が上がり危険です。

### 1 4. ビータカバーの開閉

ビータ部の掃除時には、カバーを開けると作業しやすくなります。

#### ◆ビータカバーを開けるとき

- ① 機体左側のフックを解除した状態にしてください。
- ② 機体右下側のフックを解除した状態でビータカバーを持ち上げてください。
- ③ ビータカバー上側のフックが掛かったことを確認して手を離してください。



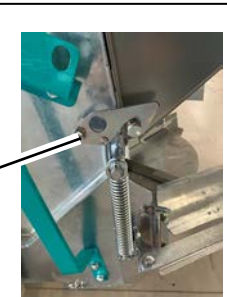
機体左側



ビータカバー上側

#### ◆ビータカバーを閉めるとき

- ① ビータカバー上側のフックを解除してください。
- ② ビータカバーを降ろしてください。
- ③ 機体両側のフックが掛かったことを確認してください。



# 簡単な手入れと処置

## 15. 電気の各配線コード、 各ヒューズの点検・交換

### 警告

配線コード被覆の損傷やコネクタ(端子)の接触不良による漏電や、ショート(短絡)は火災の原因となります。

#### ◆各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ(端子)の接続状態を点検し、緩みや外れがあるときは確実に差し込んでください。また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、購入先へ連絡して修理を依頼してください。

#### ◆各ヒューズの交換

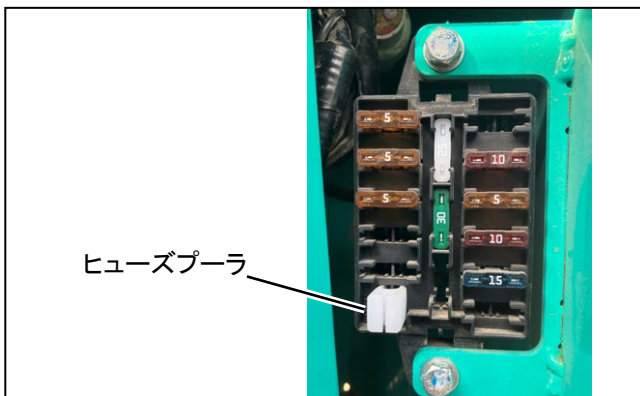
ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

### 注意

- ・新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
- ・ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先へ連絡して修理を依頼してください。

### 補足

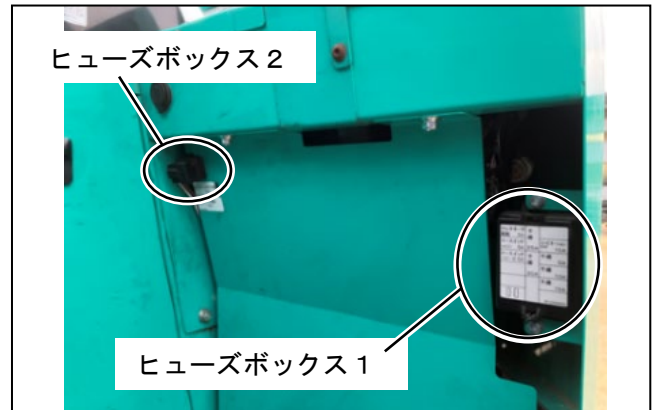
ヒューズを交換するときは、ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ(ヒューズ抜き)を使用してください。



ヒューズプーラ

1. ヒューズボックスのカバーを外します。
2. 切れたヒューズを外します。
3. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを取り付けます。
4. ヒューズボックスのカバーを取り付けます。

#### ●運転席前方(ヒューズボックス1、2)

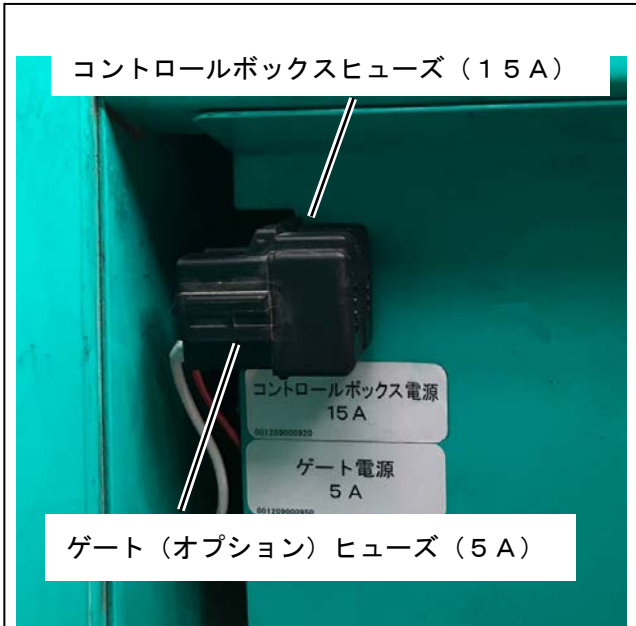


#### ・ヒューズボックス1

オルタネータ 駆動 5A	予備	
キースイッチ (ACC) 5A	25A	コンビネーション SW 10A
キースイッチ (スタータ) 5A	予備	予備 5A
	30A	予備 10A
		予備 15A
□ □		001209000930

# 簡単な手入れと処置

## ・ヒューズボックス 2



### ヒューズホルダー(コントロールボックス)

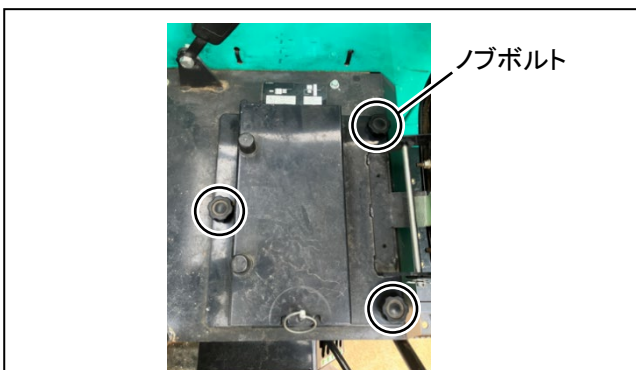
コントロールボックスの電源を入れても画面が表示されない場合は、ブレードヒューズ(15A)が切れていないか確認してください。予備ヒューズはヒューズボックス1にあります。

### ゲート(オプション)ヒューズ

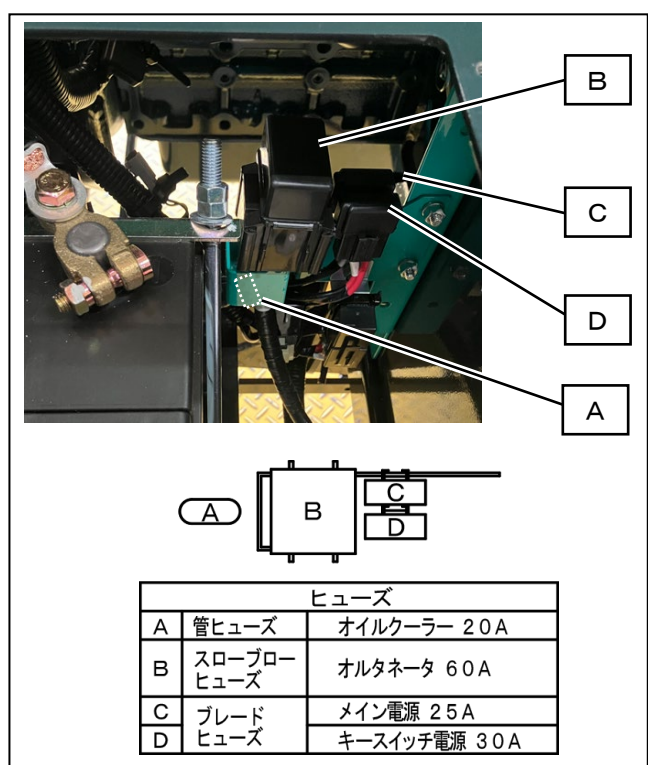
ゲート(オプション)が開閉しない場合は、ブレードヒューズ(5A)が切れていないか確認してください。

## ●運転席下部 (ヒューズボックス 3)

運転席の座席の下にあります。運転席を前方に倒したあと、ノブボルト(3箇所)を取り外し、運転席下部のカバーを取り外してください。交換後は、運転席下部のカバーを取り付けてください。



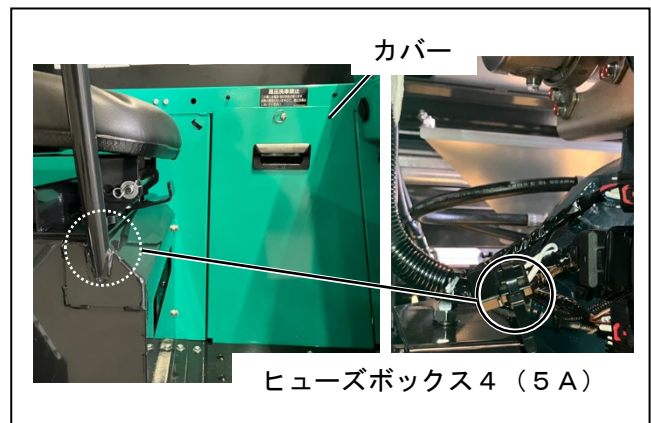
## ・ヒューズボックス 3



予備ヒューズはヒューズボックス1にあります。

## ●運転席左 (ヒューズボックス 4)

運転席の左側面にあるカバーを開けてください。カバー内で左方向を見るとヒューズボックス4があります。



### ・ヒューズボックス 4

エンジンのセンサを保護するブレードヒューズ(5A)です。予備ヒューズはヒューズボックス1にあります。

# 簡単な手入れと処置

## 16. 各種リレー1

各種リレー1はヒューズボックス3の下に位置し、運転席の座席の下のカバーを外すと確認できます。

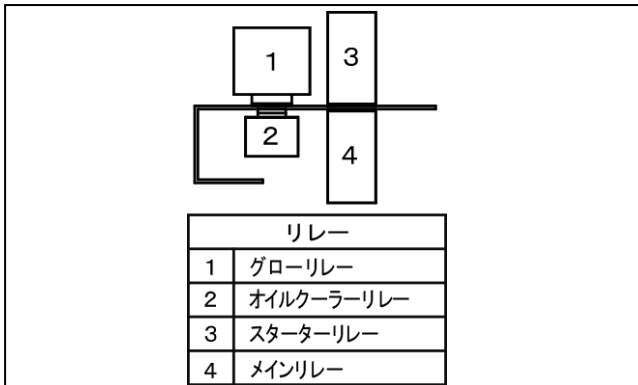
各種リレーのコネクタ差し込みが不十分な場合は、ロックがかかるところまで差し込むか、ロックがない場合リピータイで抜け止めをしてください。

メインリレーはキースイッチが「入」位置の際、バッテリーからコントロールボックスとエンジンに電源を供給します。

スタータリレーはエンジンの始動に使用します。

グローリレーはエンジン始動時に「予熱」が必要な際に、エンジンのグロープラグに電源を供給します。

オイルクーラリレーは、キースイッチが「ON」の際に、オイルクーラを作動させます。



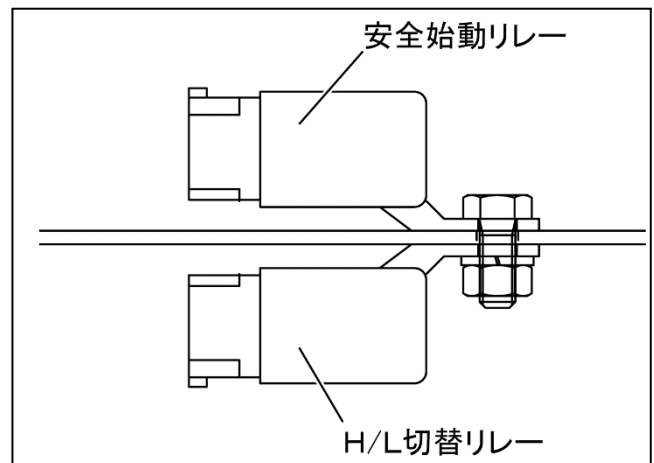
## 17. 各種リレー2



各種リレー2は、運転席前方のM8ボルト4本で固定されたカバーを外すと確認できます。各種リレー2のコネクタ差し込みが不十分な場合はロックがかかるところまで差し込んでください。

安全始動リレーはエンジン始動条件（中立スイッチ「ON」、自動駐車ブレーキ「ON」、散布スイッチ「OFF」）を満たした場合のみ、エンジンが始動できるようにしています。

H/L切替リレーは、前照灯が「入」の条件を満たした場合のみハイビームが点灯するようにしています。

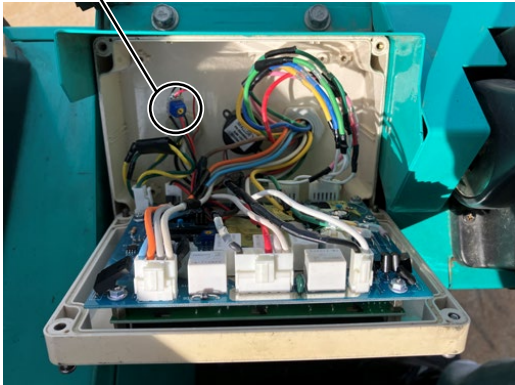


## 簡単な手入れと処置

### 18. ブザーの音量

コントロールボックス内部にブザー音量の調整ダイヤルを装備しています。前面の4箇所ネジを外してフタを開けます。

ブザー音量調整ダイヤル



プラスドライバーでダイヤルを調整してください。時計回りにダイヤルを回すと、音量が大きくなります。出荷時は音量最大になっています。

#### 注意

- ・コントロールボックスを閉じる際は配線を挟んでいないことを確認してから閉じてください。

### 19. 長期格納時の手入れ

長期格納時は、次のことを行って本機を保管してください。

- 洗車して、付着した堆肥や埃などを落とし、異物を取り除いてください。特に荷箱、足回りは念入りに洗車してください。
- 乾燥後は、各回転部、摺動部には十分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装の剥がれた部分には、補修塗料等を塗り錆が出ないようにしてください。
- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。
- エンジンの燃料タンクから軽油を完全に抜いてください。また、燃料パイプ等に残った軽油はエンジンを始動し使い切ってください。

- バッテリーはできるだけ機体から取り外し充電したうえで、日光の当たらない乾燥したところに保管してください。やむを得ず、本機に取り付けたまま保管するときは、必ずアース側(マイナス側)を外してください。
- 給油箇所には注油あるいはグリスアップをしてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は、平坦な場所で保管してください。
- ラジエータの冷却水は冬期の凍結割れ防止のため排水するか、不凍液を水に混ぜて入れてください。

### 20. 使用済廃棄物の処分について

機械の廃油等廃棄物をむやみに捨てるとう環境汚染になります。

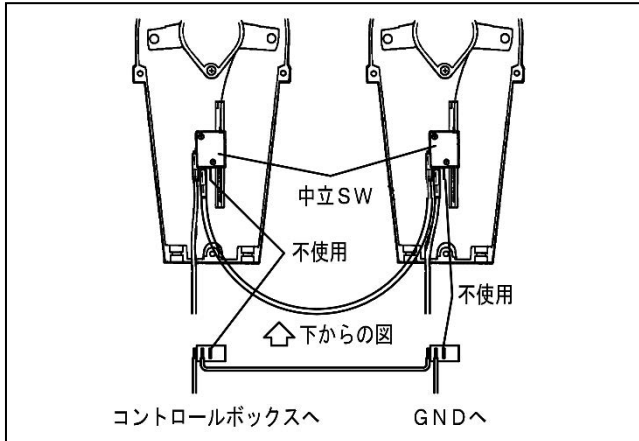
機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面への垂れ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てる際には、販売店、または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

# 簡単な手入れと処置

## 2.1. センサの調整

### ◆中立スイッチ

次図のようにハーネスを接続してください。  
使用しない端子がありますので、間違えて接続しないようにしてください。  
左右対称なので線をどちらにつなげても構いません。



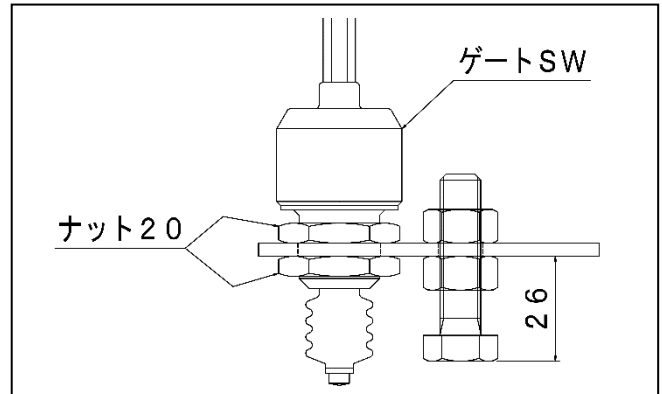
### ◆ゲートSW(オプションのゲート使用時)



オプションのゲートを使用する場合はゲートSWを次の手順で調整し、コントロールボックスの設定を変更します。

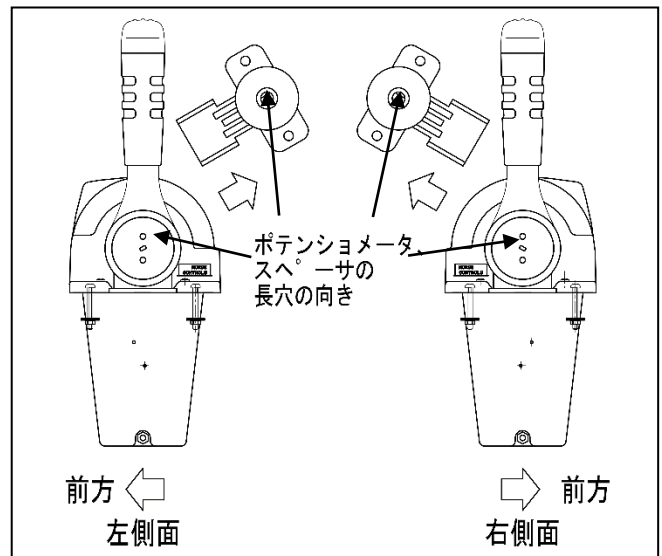
- ①M10の押しボルトの出代を26mmで固定します。
- ②ゲートを完全に開けてください。
- ③ナット20を緩めてください。
- ④コントロールボックスの入力チェックモードに入り、「ゲート SW」を表示します。
- ⑤ゲートSWがスイッチカナグに押されて反応した位置から2回転(3mm)押しこみ、ナット20で固定してください。

- ⑥コントロールボックスの設定モードに入り、「5. ゲート キノウ」をONにします。



### ◆操向レバーポテンシオメータ左右

ポテンシオメータの交換時は、ポテンシオメータの軸を回し、スペーサと長穴の向きを揃えて、軸を長穴に差し込んでください。



## 簡単な手入れと処置

### ◆燃料タンク満タン位置の設定

- ①機体を水平な状態にしてください。
- ②燃料タンクの上限位置（燃料ゲージを確認）まで燃料を入れた状態でコントロールボックスの入力チェックモードに入ってください。
- ③コントロールボックスに表示された「ネンリョウデンアツ」の値を記録してください。
- ④設定モードに入り「ネンリョウケイ マンタンイチ」の値を、③で記録した値に変更してください。



### ◆燃料タンク空位置の設定

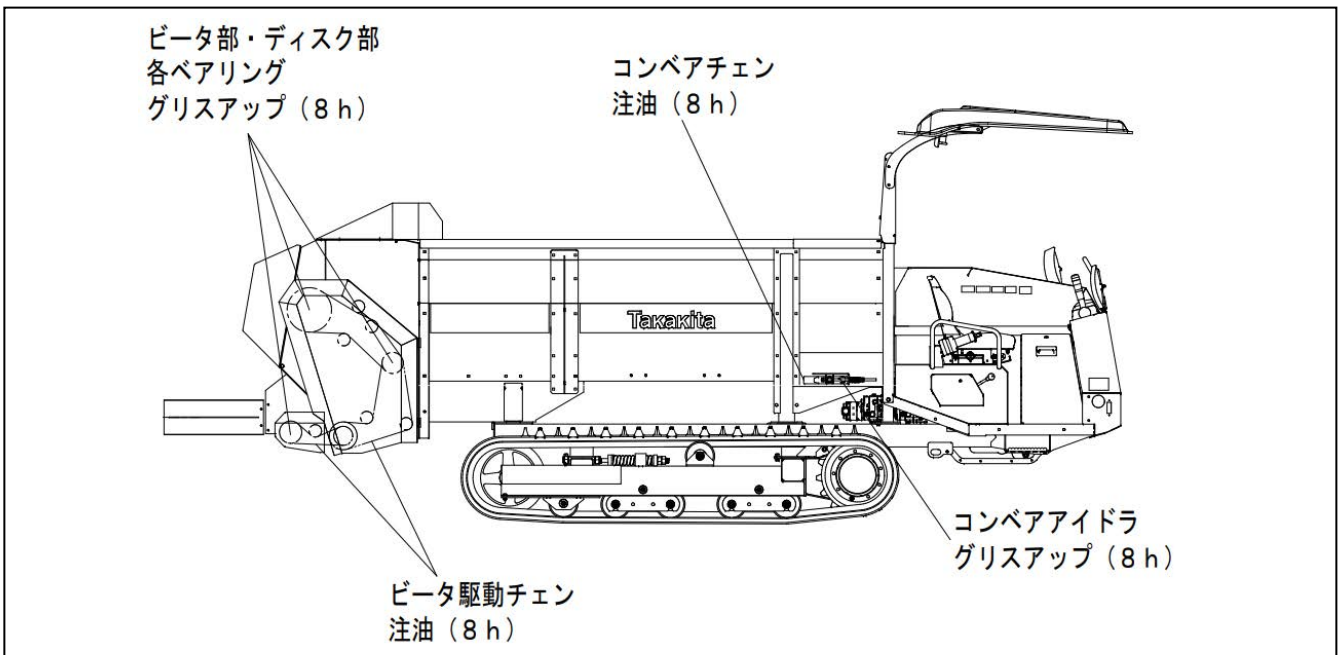
- ①機体を水平な状態にしてください。
- ②燃料タンクが完全に空の状態でもコントロールボックスの入力チェックモードに入ってください。
- ③コントロールボックスに表示された「ネンリョウデンアツ」の値を記録してください。
- ④設定モードに入り「ネンリョウケイ カライチ」の値を、③で記録した値に変更してください。

燃料タンク満タン位置、空位置は基本的に初期値(1.62V、3.33V)から変える必要はありません。

## 2.2. 各部への注油・グリスアップ

主な給油箇所を下図に示します。

指定時間毎に注油、グリスアップを行ってください。



### 注意

作業条件が悪い場合や、連続作業で稼働時間が長いときは指定時間より早めに注油、グリスアップをおこなってください。

# 不調診断

## 1. 不調診断

不調内容	診断	処置	参照ページ
●スターティングモータが回転しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●バッテリーが放電している</li> <li>●電気配線の断線</li> <li>●コネクタの接触不良</li> <li>●操向スイッチが中立(N)になっていない</li> <li>●散布スイッチがONになっている</li> <li>●自動駐車ブレーキがOFFになっている</li> <li>●スターティングモータの不良</li> <li>●キースイッチの不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●充電する</li> <li>●スタータの端子接続確認 (バッテリーの一端子を外すこと)</li> <li>●スタータリレー、安全始動リレーのコネクタの抜けを確認</li> <li>●中立(N)にする</li> <li>●散布スイッチをOFFにする</li> <li>●自動駐車ブレーキONにする</li> <li>●修理または交換する</li> <li>●交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>46</li> <li>16</li> <li>52</li> <li>17</li> <li>17</li> <li>27</li> <li>—</li> <li>17</li> </ul>
●エンジンが始動しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●燃料切れ</li> <li>●燃料系統に空気が入っている</li> <li>●燃料フィルタの目詰まり</li> <li>●エアクリーナエレメントの目詰まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●燃料を補給する</li> <li>●キースイッチONで30秒程度保持し、再スタートする</li> <li>●洗浄または交換する</li> <li>●清掃または交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>32</li> <li>—</li> <li>46</li> <li>47</li> </ul>
●エンジンが不規則に回転する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●燃料系統に空気が入っている</li> <li>●燃料に水が混入している</li> <li>●噴射ノズルが不良</li> <li>●燃料フィルタの目詰まり</li> <li>●軽油以外の燃料を使用した</li> <li>●噴射ポンプの不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●燃料タンクから噴射ポンプまでの燃料パイプを点検する</li> <li>●水抜き、または新しい燃料を交換する</li> <li>●修理または交換する</li> <li>●洗浄または交換する</li> <li>●軽油に入れ換える</li> <li>●修理または交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> <li>—</li> <li>—</li> <li>46</li> <li>45</li> <li>—</li> </ul>
●運転中エンジンが停止した	<ul style="list-style-type: none"> <li>●燃料切れ</li> <li>●燃料系統に空気が入っている</li> <li>●燃料フィルタの目詰まり</li> <li>●過負荷運転をした</li> <li>●燃料に水が混入している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●燃料を補給する</li> <li>●燃料タンクから噴射ポンプまでの燃料パイプを点検する</li> <li>●洗浄または交換する</li> <li>●負荷を軽くする</li> <li>●水抜き、または新しい燃料を交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>32</li> <li>—</li> <li>46</li> <li>40</li> <li>—</li> </ul>

# 不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●エンジンが オーバーヒートした	●シリンダブロックフィンが目詰まり ●冷却水の不足 ●エンジンオイルの不足 ●ファンベルトの切れ ●過負荷運転をした ●ラジエータフィンが目詰まり	●清掃する ●冷却水を補給する ●エンジンオイルを補給する ●交換する ●負荷を軽くする ●清掃する	— 44 42 68 40 44
●マフラーより 白煙が出る	●エンジンオイルの量が多すぎる ●エンジンオイルの粘度が低すぎる	●オイルを適量になるまで抜き取る ●適度な粘度のオイルにする	42 42
●マフラーより 黒煙が出る	●エアクリーナエレメントが目詰まり ●過負荷運転をした	●清掃または交換する ●負荷を軽くする	47 40
●ジュウデンイジョウと 表示される	●スローブローヒューズが 切れている ●ファンベルトが切れている	●配線系統を点検、修理して 新しいヒューズに交換する ●交換する	50 68
●走行しない	●油圧オイル不足  ●プッシュプルワイヤーが 外れている	●油圧オイルを補給する ●オイルクーラーの点検、清掃 ●プッシュプルワイヤー組付け	43 16 —
●散布しない	●床送りが動いていない	●送りレバーを入れる	32
●散布量が少ない	●床送りコンベアの調節不足 ●ビータに長ワラ、草などが巻き 付き、ビータの作用が不十分	●コントロールワイヤを調節する ●巻き付いているものを除去する	49 49
●散布幅が狭い	●羽根が変形して、脱落している ●堆肥を積みすぎている	●新しい部品を交換する ●適正な積込みをする	68 40
●直進しない	●操向レバーの調整不良	●調整する	49
●出力不足	●エアクリーナエレメントが目詰まり	●清掃または交換	47
●走行速度が 上がらない	●油圧オイル温度が上昇	●オイルクーラーの点検、清掃	16

# 不 調 診 断

## 2. エラーコード一覧表

つぎの表のエラーが表示された場合は、特販店、またはJ A（農協）にご相談ください。

### ◆エラーコード一覧表

エラーコード	コントロールボックス表示	原因	異常値の動作
97 31	ネンリョウ ミズ コンニユウ	燃料に水が混入	なし
100 1	オイル プレッシャ スイッチ	油圧低下異常	なし
102 4	キュウキアツ テイ	ブースト圧センサ (Low側)	初期値使用
102 3	キュウキアツ コウ	ブースト圧センサ (High側)	初期値使用
108 3	タイキアツ コウ	大気圧センサ異常 (High側)	初期値使用
108 4	タイキアツ テイ	大気圧センサ異常 (Low側)	初期値使用
110 0	レイキヤクスイ オーバーヒート	エンジンオーバーヒート	出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
110 3	レイキヤクスイ センサ コウ	水温センサ (High側)	出力75%制限
110 4	レイキヤクスイ センサ テイ	水温センサ (Low側)	出力75%制限
132 1	MAFセンサー リョウ テイ	吸気不足異常	出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
132 3	MAFセンサー デンアツ コウ	MAFセンサ (High側)	センサ初期値、 出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
132 4	MAFセンサー デンアツ テイ	MAF センサ (Low側)	センサ初期値、 出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
132 15	MAFセンサー リョウ コウ	ブースト圧上昇不足異常	出力50%制限、 回転数50%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
157 0	レールアツ センサ コウ	レール圧力異常高圧	出力50%制限、 回転数50%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開

# 不 調 診 断

エラーコード	コントロールボックス表示	原因	異常値の動作
157 3	レールアツ センサ コウ	レール圧センサ (High側)	出力50%制限、 回転数50%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開 60秒後にエンジン停止
157 4	レールアツ センサ テイ	レール圧センサ (Low側)	出力50%制限、 回転数50%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開 60秒後にエンジン停止
171 3	MAFセンサー オンド コウ	吸気温度センサ (MAF センサ内臓) (High側)	初期値使用
171 4	MAFセンサー オンド テイ	吸気温度センサ (MAF センサ内臓) (Low側)	初期値使用
172 3	キュウキオンド コウ	吸気温度センサ異常 (High側)	センサ初期値、 低温時に白煙量増大
172 4	キュウキオンド テイ	吸気温度センサ異常 (Low側)	センサ初期値、 低温時に白煙量増大
190 0	エンジン オーバーラン	エンジンオーバーラン	噴射停止
628 2	FLASH ROM エラー	ECUフラッシュ ROMエラー	エンジン停止
633 7	プレッシャリミッター カイ	プレッシャリミッタ開弁 異常	出力50%制限、 回転数50%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
636 2	クランクシャフト パルススウ	NEセンサ(クランク シャフト位置センサ) パルス数エラー	出力75%制限
636 7	クランクシャフト イソウサ	NE-G 位相ずれ	出力75%制限
636 8	クランクシャフト ニュウリョク	NEセンサ(クランク シャフト位置センサ) パルス入力なし	出力75%制限
651 3	インジェクター 1 ダンセン	シリンダ #1 インジェクターの ハーネス / コイルの 回路断線	出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
652 3	インジェクター 2 ダンセン	シリンダ #2 インジェクターの ハーネス / コイルの 回路断線	出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開

# 不 調 診 断

エラーコード	コントロールボックス表示	原因	異常値の動作
653 3	インジェクター 3 ダンセン	シリンダ #3 インジェクターの ハーネス / コイルの 回路断線	出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
654 3	インジェクター 4 ダンセン	シリンダ #4 インジェクターの ハーネス / コイルの 回路断線	出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
676 0	グローリレー オーバーヒート	グローヒーターリレー駆動 回路のオーバーヒート	なし
676 5	グローリレー ダンセン	グローリレー駆動回路 の断線	なし
677 4	スタータリレー - ショート	スタータリレー駆動回路 のアースショート	なし
679 7	リリーフバルブ コチャク	プレッシャリミッタが開弁 されない	エンジン停止時
679 16	リリーフアツ イジョウ	プレッシャリミッタ開弁後 レール圧不良	エンジン停止時
723 2	カムシャフト パルス スウ	G センサ(カムシャフト位 置センサ) パルス数エラー	なし
723 8	カムシャフト センサ ダンセン	G センサ(カムシャフト 位置センサ)パルス入力 なし	なし
1077 2	CPU IC エラー	ECU CPU エラー (メイン IC エラー)	エンジン停止
1077 12	インジェクターic ダンセン	インジェクタドライブ IC のエラー または回路断線	エンジン停止
1239 1	ネンリョウ モレ	燃料漏れ (高圧燃料系統)	出力50%制限、 回転数50%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
1347 3	SCV + ショート	SCV(吸入調量弁)の +Bショート	出力50%制限、 回転数50%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開 60秒後にエンジン停止
1347 4	SCV - ショート	SCV(吸入調量弁) 駆動系統エラー	出力50%制限、 回転数 50%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開 60秒後にエンジン停止

# 不調診断

エラーコード	コントロールボックス表示	原因	異常値の動作
1347 5	SCV ダンセン	SCV(吸入調量弁)の回路断線	出力50%制限、 回転数50%制限、 EGR停止、 60秒後にエンジン停止
1347 7	SCV カイイチ コチャク	SCV(吸入調量弁)固着	出力50%制限、 回転数50%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
1485 2	メインリレー ヘイ ロック	メインリレー異常	なし
3242 0	DPFイリグチオンド1 コウ	排気ガス温度センサT1 上昇異常	エンジンストップ、 300℃に下がるまで スタータリレー起動禁止
3242 3	DPFイリグチオンド1Vコウ	排気ガス温度センサ 1 (High側)	センサ初期値、 出力75%制限
3242 4	DPFイリグチオンド1Vテイ	排気ガス温度センサ 1 (Low側)	センサ初期値、 出力75%制限
3246 0	DPFデグチオンド2 コウ	排気ガス温度センサT2 上昇異常	エンジンストップ、 300℃に下がるまで スタータリレー起動禁止
3246 3	DPFデグチオンド2Vコウ	排気ガス温度センサ2 (High側)	センサ初期値、 出力75%制限
3246 4	DPFデグチオンド2Vテイ	排気ガス温度センサ2 (Low側)	センサ初期値、 出力75%制限
3251 3	DPF サアツセンサ コウ	差圧センサ1 (High側)	センサ初期値、 出力75%制限
3251 4	DPF サアツセンサ テイ	差圧センサ 1 (Low側)	センサ初期値、 出力75%制限
3252 0	DOC フカンゼンネンショウ	排出ガス異常	出力50%制限、 回転数50%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
3509 3	センサーデンアツ 5V1 コウ	センサ供給電圧 1 (High側)	アイドル、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
3509 4	センサーデンアツ 5V1 テイ	センサ供給電圧 1 (Low側)	アイドル、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
3510 3	センサーデンアツ 5V2 コウ	センサ供給電圧2 (High側)	出力75%制限
3510 4	センサーデンアツ 5V2 テイ	センサ供給電圧2 (Low側)	出力75%制限
3511 3	センサーデンアツ 5V3 コウ	センサ供給電圧3 (High側)	出力75%制限

# 不 調 診 断

エラーコード	コントロールボックス表示	原因	異常値の動作
3511 4	センサーデンアツ 5V3 テイ	センサ供給電圧3 (Low側)	出力75%制限
3701 0	DPF PMタイセキ レベル5	PM堆積異常レベル5	出力50%制限
3701 15	DPF PMタイセキ レベル3	PM堆積異常レベル3	出力50%制限
3701 16	DPF PMタイセキ レベル4	PM堆積異常レベル4	出力50%制限
4765 0	DOCイリグチオンド0 コウ	排気ガス温度センサT0 上昇異常	エンジンストップ、 300°Cに下がるまで スタータリレー起動禁止
4765 3	DOCイリグチオンド0Vコウ	排気ガス温度センサ0 (High側)	センサ初期値、 出力75%制限
4765 4	DOCイリグチオンド0Vテイ	排気ガス温度センサ0 (Low側)	センサ初期値、 出力75%制限
523523 3	1 4インジェクター ショート	シリンダ #1 および #4 のインジェクター または全シリンダの インジェクターが +Bショート	出力75%制限
523524 3	2 3インジェクター ショート	シリンダ#2および #3のインジェクター または全シリンダの インジェクターが +Bショート	出力75%制限
523525 1	インジェクターデンアツ テイ	インジェクタチャージ 電圧不足	出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
523527 2	CPUデンゲン カンシ IC	ECU CPUエラー (モニタリング IC エラ ー)	エンジン停止
523535 0	インジェクターデンアツ コウ	インジェクタチャージ 電圧過大	出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開 60秒後にエンジン停止
523538 2	EEPROM データ ヨミコミ	QR (IQA) データエラー	出力75%制限
523538 7	EEPROM データ ナシ	QR (IQA) データなし	出力75%制限
523544 3	グローリレー + ショート	グローリレー駆動回路 の+B ショート	なし
523544 4	グローリレー - ショート	グローリレー駆動回路 のアースショート	なし
523547 2	CAN2 バス オフ	CAN2バスオフ	アイドル
523548 2	CAN クボタ ダンセン	CAN_KBTフレーム エラー	アイドル

# 不 調 診 断

エラーコード	コントロールボックス表示	原因	異常値の動作
523572 4	EGR ポジション センサ	EGRポジションセンサ不良	出力75%制限、EGR停止
523574 3	EGRアクチュエータ ダンセン	EGRアクチュエータの回路断線	出力75%制限、EGR停止
523574 4	EGRアクチュエータ ショート	EGRアクチュエータコイルのショート	出力75%制限、EGR停止
523575 7	EGR バルブ コチャク	EGRアクチュエータバルブ固着	出力75%制限、EGR停止
523576 2	EGR モータ オーバーヒート	EGR(DCモータ)オーバーヒート	出力75%制限、EGR停止
523577 2	EGR モータオンド センサー	EGR(DCモータ)温度センサ異常	出力75%制限、EGR停止
523580 2	インテーク フィードバック	吸気スロットルフィードバック異常	出力75%制限、吸気スロットル100%開
523582 3	インテークスロットルリフト コウ	吸気スロットルリフトセンサ異常(High側)	出力75%制限、吸気スロットル100%開
523582 4	インテークスロットルリフト テイ	吸気スロットルリフトセンサ異常(Low側)	出力75%制限、吸気スロットル100%開
523589 17	チュウシャサイセイ オンドテイ	手動再生時水温上昇不足異常	なし
523590 16	チュウシャサイセイ タイムアウト	手動再生処理タイムアップ異常	なし
523592 2	CAN CM1 フレーム	CAN CM1(再生スイッチ)フレームエラー	再生禁止
523593 2	CAN DDC1 フレーム	CAN DDC1フレームエラー	なし
523594 2	CAN ETC2 フレーム	CAN ETC2(ニュートラルスイッチ)フレームエラー	なし
523595 2	CAN ETC5 フレーム	CAN ETC5(ニュートラルスイッチ)フレームエラー	なし
523596 2	CAN TSC1 フレーム	CAN TSC1フレームエラー	なし
523598 2	CAN EBC1 フレーム	CAN EBC1フレームエラー	出力75%制限
523599 0	ゼン ハイキオンセンサ テイ	全排気ガス温度センサ同時断線異常	出力75%制限
523601 0	0 1 2ハイキオンセンサ コウ	排気ガス温度高温異常継続	エンジンストップ、300℃まで低下するまでスタータリレー起動禁止

## 不 調 診 断

エラー コード	コントロールボックス表示	原因	異常値の動作
523602 0	DPFサイセイ ヒンパツ	再生頻度過多異常	出力50%制限、 EGR停止
523603 15	レイキヤクスイ コウオン ヨレイ	オーバーヒート 事前警告	なし
523604 2	CAN1 バス オフ	CAN1バスオフ	出力75%制限、 EGR 停止
523605 6	インジェクター IC ショート	インジェクター ドライバ IC のショート	DTC 発生した インジェクター停止、 出力75%制限、 EGR停止、 吸気スロットル100%開
523700 13	EEPROM データ フゴウ	EEPROM チェックサムエラー	なし

# 付 表

## 1. 主要諸元

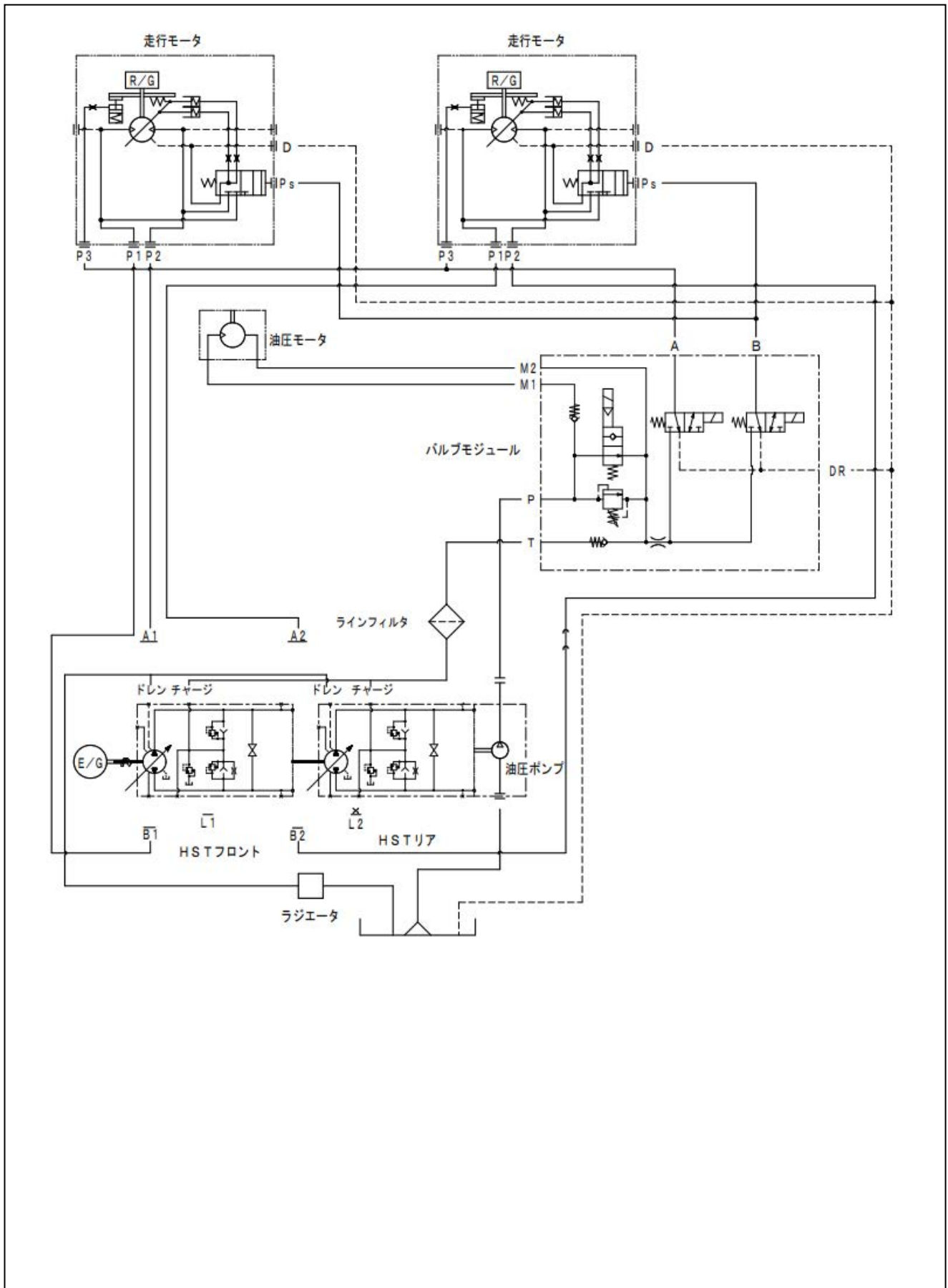
品 名	自走マニアスプレッダ	
型 式	SD3000D	
ビ ー タ 形 式	ディスクビータ	
車体寸法	全 長	5185mm
	全 幅	1930mm
	全 高	2320mm
地 上 高	最低地上高	350mm
	床 面 高 さ	840mm
機 体 質 量	2875kg	
荷台寸法(L×W×H)	2700mm×(1635~1785mm)×700mm	
最 大 積 載 量	3000kg	
ゴムクローラ 寸 法	ク ロ ー ラ 幅	450mm
	中 心 間 距 離	1250mm
	接 地 長	1880mm
接 地 圧	空 車 時	16.5kPa (0.17kg/cm <sup>2</sup> )
	積 載 時	33.7kPa (0.34kg/cm <sup>2</sup> )
旋 回 方 法	HST油圧ミッション方式	
速 度	前 後 進 低 速	0~5.0km/h
	前 後 進 高 速	0~8.5km/h
エ ン ジ ン	型 式	クボタエンジン V2403-CR-E4B ディーゼル水冷4気筒(排気量2434cc)
	定 格 出 力 (グ ロ ス)	37.4kW±5.0%・2700min <sup>-1</sup> (50.8PS/2700rpm)
	燃 料 消 費 率 (定 格 時)	238.8g/kW-h±5%
散 布 幅	3~10m	
登 坂 能 力	20度	

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。



# 付 表

## 3. 油圧配管図



# 付 表

## 4. 主な消耗部品

部 品 名 称	品 番	備 考
コンベアバー	47238 6110 000	
コンベアチェン	11601 1323 001	#57チェン
ハネヒダリ	47238 8371 000	ディスクヒダリのハネ
ハネミギ	47238 8372 000	ディスクミギのハネ
ビータハネ	47106 2341 000	ビータのハネ
エアクリーナエレメント(アウター)	09459 8002 611	
エアクリーナエレメント(インナー)	0943A 1111 913	
オイルカートリッジ(エンジン)	094J3 3143 002	
ラインフィルタエレメント	47238 3651 000	大生工業製 フィルタエレメント 351-B-08-10U
サクシヨンフィルタ	28102 7654 000	大生工業製 SFT-08-150W
ファンベルト	0941G 3829 701	三ツ星ベルト製 ローエッジベルト RECMF-6405
バッテリー	47238 9511 000	JIS115D31R
スローブローヒューズ 60A	00900 0300 600	
管ヒューズ 20A	00900 0100 200	
ブレードヒューズ 5A	00900 0200 050	
ブレードヒューズ 10A	00900 0200 100	
ブレードヒューズ 15A	00900 0200 150	
ブレードヒューズ 25A	00900 0200 250	
ブレードヒューズ 30A	00900 0200 300	